





特別付録

-  アエカップ（アイヌ語で「消息」の意）（2012年度教会報告）
-  第73回定期総会における特別決議
-  教区宣教活動方針に基づく2013年度活動計画
-  ペンテコステ書簡（北海教区総会議長）

アイカップ

【道北地区】

■ 稚内教会

創立61周年を迎えた稚内教会は柳幸三郎牧師の隠退後に、九州・福岡より森言一郎牧師を迎えて新たなスタート。早々に信徒の102歳のお母さまの葬儀が執り行われるも、それを機に会員一同、森牧師と共に歩み出す教会生活の始まりを実感した春でした。

6月には各地より多数の来賓の中、牧師就任式を挙行。17時開式に合わせ道北地区の方々が、士別教会・難波牧師運転の地区バスツアーを兼ねて駆けつけて下さいました。就任式の後は稚内教会の持てる限りの力を結集し、ウニ・カニ・ホタテと笑顔がこぼれ落ちる喜びの宴の時でした。

10月、創立61周年記念礼拝に初代牧師の田村喜代治先生97歳（名寄と兼務）を北見より迎え感謝を捧げました。ひかり幼稚園は創立51周年、きらきら保育園も創設4年。確かな歩みを進め、教会との一心同体・二人三脚の歩みを深めています。礼拝案内板や召天者記念ボードも新装。玄関にはスカイブルーの美しいスリッパが献げられて来会者を明るく迎えます。

ホームページも一新。教会の出来事をつづるブログや折々の写真、IC録音説教等、福音発信に努めています。抗がん剤治療を受けている方が小さな群れに5名居られますが、その中より76歳の男性がクリスマスにご自宅で受洗。今後は一同の伝道気運をいかに高め実践するか。教会財政も教区の支援抜きでは考えられません。最北教会の貴い使命を自覚しつつ、孤立せぬよう、教区の一員としての歩みをと祈ります。

■ 名寄教会

今年度も名寄教会は多くの人々の協力を得ながら歩み続けています。代務者のウイットマー牧師が8月と9月に二回カナダに行く仕事があり、8月に田村喜代治牧師と相良展子牧師が名寄教会で礼拝説教をして下さり、懐かしい思い出を分かち合う交わりの時を持つ事が出来ました。9月にディヴァン・スクルマン宣教師と柳幸三郎牧師の礼拝協力によってまた豊かな交わりと交流の場が与えられました。その他にもいろんな人々の助けと祈りによって名寄教会が希望を持って神様の未来に向かっていきます。

今年度の計画に基づいて、離れた所の信徒と求道者を訪ねる「お出かけプログラム」、クリスマスの映画会、受難週にはイエスの最後の晩餐（過ぎ越しの食事）の特別プログラムを行い、またパワーポイントで道北センターの活動紹介などを行ってきました。

二人の会員が天に召されるという寂しさと悲しみを経験

しながら、イースター礼拝において二人の若い女性が洗礼を受けるという大きな喜びも与えられています。その洗礼に向けて、1月より月一回の対話説教（インタビュー形式の信徒の証）を行っています。

これからの課題として名寄幼稚園及び道北センターとのパートナーシップを意識しながら、交流と協議の場を設けることを検討し、次の牧師を招聘する準備を進めていきたいと考えています。どうか、お祈りください。

■ 興部伝道所

2012年度の歩みを主に感謝します。平均10名ほどの礼拝出席の中、礼拝の人数の多い少ないに一喜一憂しながら、それでも興部における福音の火をともし続けることができました。

特筆すべきことのない一年でしたが、だからこそ、ほんのちょっとしたことにも大きな喜びを見出すことができるのだということを最近実感しています。礼拝に初めての方が出席されたこと。地域の人たちが家族でクリスマス礼拝に出席して下さったこと。教会の公のイベントに、たくさん子どもたちが来てくれたこと。暗い状況にばかり目が行きがちになってしまっていますが、そうしたささやかな喜びにこそ、神の恵みがあるという思いで、新しい年度も歩んでいきたいと思えます。

昨年11月に、興部伝道所の初代牧師であられる石川直一牧師が天に召されました。伝道所創立当初の、非常に厳しい時代におけるお働きに感謝をすると同時に、残されたご家族の上に主の慰めをお祈りしたいと思います。

■ 士別教会

皆さんのお祈りとお支えに感謝いたします。

今年度は受洗者が1名与えられ、皆で喜びました。感謝です。日本や韓国から士別へ短期滞在された方々と礼拝を守ることが嬉しく、励まされました。韓国教会から派遣された短期宣教師（信徒籍）と共に宣教活動に励み、一時的ですが教会学校を開くこともできました。日頃から子どもたちはトーンチャイム演奏や地区・教区のキャンプ、教会の礼拝や行事に参加していますが、教会学校を通して聖書を学び、賛美する機会が与えられ感謝でした。現在は『子ども祝福』の形として礼拝の中でおこなっています。

教育講演会や三浦綾子読書会による映画と講演会開催など地域の方と分かち合うことを通し『地域に仕える働き』を新しく生み出すことができました。また、建て替え中のカトリック士別教会の幼稚園、体操教室やおよこ劇場の交流会に会堂をお貸しする機会もあり教会へ足を運ぶ方々との交流も深められています。米国のゴスペルクワイヤーの日本ツアーのお手伝いをし、北海道宣教に寄与することができました。

2013年度も地域宣教に力を入れて行きたいと願っております。

■ 和寒伝道所

この一年も、道北地区内の皆さんに支えられたことを感謝したい。原則毎月第一木曜日の礼拝のほか、イースターやクリスマスの礼拝を日曜日の夕方に行なった。それに加えて、昨年度同様、道北デー交換講壇礼拝（7月）、名寄伝道圏の交換講壇礼拝（9月）を実施、道北地区、名寄伝道圏の交わりに参加することができたのは、とても意味深いことである。地区内から7教会と道北センターの協力で礼拝出席応援や雪下ろし、草刈りなどの奉仕がなされた。特に旭川六条教会壮年会は、毎回の礼拝に出席者を組織的に送り出してくださった。「道北リングの会」には雪下ろしの際に豚汁を用意してくださるなどして支えられた。クリスマスは、前年度に続き40名を越す出席があり、祝会も楽しく行なった。また借入金返済に力を注ぎ、教区に14万円を返済して完済、名寄伝道圏には15万円を返済して残り30万円までこぎつけた。

和寒伝道所の礼拝に出席することで、小規模教会ならではの豊かな交わりを経験して、神さまからの恵みをいただいているという声を聞けるのは、本当にうれしいことである。新年度も「和寒モデル」と呼ばれるようになった地区宣教協力体制の下、礼拝での喜びの力に満たされながら、和寒で働かされている主の御業に参加していきたい。とくに7月には地域とのつながりを造り出すため、出店などを準備して「こどもまつり」を計画、夏の一日、地域の方々に多く来てもらえるようなイベントを行ないたい。

■ 旭川六条教会

この一年、召天5名、転出7名があり、会員数、教会財政とも、その影響が大きかった。礼拝出席は前年度並みであり、会員の礼拝出席努力と新来者出席によるものと感謝している。2012年度から祈祷会では週ごとに誕生者祝福の祈りをしている。一人ひとりの消息を覚え、祈りを合わせることができた。

創立110周年記念事業として取り組んだ藤吉求理子協力牧師による活動は予定された2年間を終了した。この間、10～20代の若い人たち一人ひとりとのつながりを大切に育みつつ、若い人たちの活動が活発に行なわれた。この中で、こども1名の高校生が洗礼を受けたのは恵みであった。藤吉協力牧師を送り出してくださった道北クリスチャンセンターに感謝している。6月の伝道公同礼拝には、同志社大学から越川弘英牧師を講師にお招きした。当日25名の求道者が出席し、前日には信徒研修会を行なって礼拝と教会形成について学んだ。教会納骨堂は、傷みの激しかった屋根、天井、外壁、内壁の修理を行なった。

西岡牧師は引き続き和寒伝道所の代務をされた。教会としても、前年度以上に数多くの者たちが和寒伝道所の礼拝応援や、草刈り、雪下ろしなど奉仕作業に参加することができた。土別教会支援、美馬牛福音伝道所の会堂建築返済協力、礼拝応援のためにも力を注いでいる。社会部によ

て東日本大震災被災支援募金が継続中である。新年度も、活力ある公同礼拝と祈祷会を心がけ、福音宣教を前進させたい。

■ 旭川豊岡教会

2012年度、旭川豊岡教会は教会創立110周年を迎えました。教会のこれまでを振り返り、教会のこれからのあるべき姿を皆で考えたいと願いました。そのために、各種110周年記念行事を計画し実行に移しました。具体的には、幼稚園関係者を招いての「オープンチャーチ」、地域の方を招いての「パイプオルガンで歌おう会」、過去の写真のパネル展示、月報「つのぶえ」特集号、クリスマスコンサートを行いました。また、牧師館裏の畑を耕し、秋にはとうきびや枝豆などの収穫を楽しみました。教会がイエス・キリストに繋がりが続けることができるようにと、ぶどうの植樹も行いました。少しずつですが教会の中に活気が生まれてきています。

2013年度は教会全体で少しゆっくりと歩んでいきたいと話し合っています。教会に来て、礼拝に出席し、その後の時間、皆で、あるいは、それぞれに話し合ったりゆったりと過ごす。教会が集う方々にとって心からホッとできるような場になるよう、皆で協力していきたいです。

旭川豊岡教会を取り巻く状況は容易なものではありませんが、しかし、私たちは与えられた条件の中で神の御心を信じ祈りつつ歩んでいきたいと願っています。

■ 旭川星光伝道所

①長く求道された方が死を前に受洗され、教会をあげて葬儀をした。美馬牛福音伝道所のために献金とバザーによる支援をした。ポストカードの作成販売を主に、協力活動した。東日本大震災のため、コイン募金を毎週続けた。「バッハをうたう」会に会場提供し、クリスマスイブ礼拝にコンサートを催した。クリスマスや暑中見舞に、長期に教会出席できない方、こころの友応援教会や世話になった方に寄せ書きでカードを送付した。牧師が怪我をし、札幌市内教会から礼拝応援を頂いた。CSは花の日子どもの日にお年寄りを訪問した。キャンプは旭川豊岡教会合同でした。夏休み中に2回にわたり、教会で物づくりをした。クリスマスはパーティーを実施した。

②創立60周年事業として、教会と牧師館の内装を新しくする。礼拝についての学びを教会員中心にする。

③2014年度道北地区が年修担当となり、協力していく。美馬牛福音伝道所会堂返済に献金協力する。「バッハを歌う会」「三浦綾子読書会」に会場提供し、求道者への働きを、こころの友配布等とともに続ける。CSは中高生中心の活動を参加できるよう工夫して続ける。

■ 美馬牛福音伝道所

①2012年度も会堂長期返済4回分を果たした。地区、教区、全国のご支援ご加禱に心より感謝する。礼拝は5

名位で守られている。牧師の体調もあり、伝道圏牧師の説教応援を頂いた。旭川豊岡教会、旭川星光伝道所C S 合同キャンプ、NCM2 ゴスペルコンサート、全道青少年夏期キャンプ。旭川伝道圏美馬牛合同礼拝をした。8月12日、19日の2回の聖日は仙台青葉荘教会の全面応援の下、森田聖子牧師を派遣くださり説教応援を頂いた。その期間旭川星光C S等、リングの会の応援を頂き、草とり、茶話会をした。クリスマスは一部キャンドルを行い、祝会はフルートのコンサートと持ち寄りの食事をし、多くの子どもと地域の人と交わりができた。

②年度末に渡部伸哉兄が大病、3週間入院した、回復に向かっています。ご加禱ください。長期貸付金返済を教区にします。2014年、年修への奉仕。各教会の交流連帯と礼拝の充実。

③こころの友の配布活動。会場提供と共に、交わり連帯を通しての活動を引き続きする。バザーなどで、会堂返済のための活動。

■ 留萌宮園伝道所

宣教の拠点を留萌に置いて27年目を迎えます。

今年度もコリント信徒への手紙二12章9節を目標聖句とし「愛をもって生きる」をテーマに、弱さを絆に共に祈りつつ歩んだ一年でした。毎礼拝の中で”主の招きの食事”や第五日曜日の分かち合い礼拝を今年も継続しました。一人ひとりのその日の気分と体調、一週間で恵みと感じたこと、みんなに祈ってもらいたい課題などを語りあい、祈りによって連なっていることを実感できました。安心して自分の事を語り、傾聴しあえる交わりが続けられた事は感謝です。今年は分かち合い礼拝において二名ずつ長めに証をして頂き、より深く豊かな時となりました。

今年も教団伝道部を通して旭川六条教会と勝田教会から「こころの友」100部を応援頂き、近隣に毎月伝道礼拝やクリスマス等の案内と共に配布し、地道に宣教活動を行いました。冬に悪天候が続き、配布が出来ない月があったのが残念でした。伝道礼拝を2回開催し、たいへん祝福された礼拝を持ちました。

毎日遊びに来るこどもたちが礼拝に8名ほど継続して参加を続けています。礼拝をともにし、祈りの交わりをして夕方まで遊んでいきます。課題の多いこどもたちゆえ、みなで祈りつつ成長を見守っています。

教区アイヌ民族情報センターが当伝道所に移り9年を経ました。アイヌ民族の権利回復の働きと主事の働きを覚え祈っています。

ご病気や転居で少ない礼拝参加者がさらに減少しているのはさびしいです。会計運営も益々厳しくなっております。教会員一同、より努力をしていきます。どうぞ覚えてお祈り下さい。

【道東地区】

■ 北見望ヶ丘教会

今年度の歩みは、置戸教会が無牧師になることを受け、牧師をその代務者とすると共に、役員荒谷陽子姉を宣教主事として送り出す決断から始まりました。月に一度の牧師不在日は「朗読説教礼拝日」として、信徒全員が持ち回りで『一日一章』（榎本保郎著）を朗読し、主日礼拝を守っています。また、子ども説教も月に一度、信徒が担当しています。これまで役員経験のない三名が、新役員として選出され、その重責を果たしてくれました。子どもの教会は盛況で、子どもの礼拝出席が10名を超える日も珍しくありません。CCサマーキャンプでは教師も含めて20名の参加がありました。「聖書と祈りの会（聖書研究祈祷会）」を、学びの会から分かち合いの会へと、新しいスタイルに刷新しました。ペンテコステにおいて一人の幼な子が受洗し、イースターにおいて三人の姉妹が転入しました。年末には、北見のぞみ幼稚園前園長の小関祐一兄を天にお送りしました。道東地区婦人会とは積極的に関わり、婦人会修養会に多くの信徒が出席しました。幼稚園バザーではフリーマーケット部門等を担当し、大きな貢献をすることができました。置戸教会との宣教協力で、琴似中央通教会との出会いが与えられました。北見のぞみ幼稚園に関しては園児数も増加しており、新しいバスの導入等、積極的な経営努力がなされています。地方教会ゆえの苦悩はもちろんあります。しかし、恵みと喜びの方がより大きかった一年でした。

■ 置戸教会

2012年度、置戸教会は北見望ヶ丘教会の秋山牧師を代務牧師、同教会の役員であった荒谷陽子姉を宣教主事として迎え、新たな体制でスタートしました。教区三役と幹事を含め50名の方々に見守られて就任式を行うことができたのは、本当に大きな励みであり、その後も道内の多くの教会から有形無形の支援を受けて礼拝を守ることができました。月に一度は、秋山牧師が説教・聖餐式・役員会のために来てくださっています。

札幌北光教会と琴似中央通教会には、宣教協力と銘打って主日礼拝に三度、牧師や信徒を送り込んでいただき、代わりに主事が両教会に赴いて研修の機会をいただきました。地区内の教会からも暖かい応援を受け、教師会の一員としていただき、交換講壇の輪にも加えていただきました。クリスマス礼拝には20年ぶりの教会員を含め24名が集い、礼拝堂が喜びに満たされました。

宣教主事には前述の宣教協力の他にも、教職講座、牧会者研修、道北クリスチャンセンターでの信徒のための宣教講座など、さまざまな学びの機会を与えていただき感謝に堪えません。年間聖句「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている」（イザヤ書43:19）に力をもたらした一年でした。来年度も引き続き宣教主事体制を固めつつ、私共の取り組みについてより多くの教会の方々に知っていただく機会があればと願っています。

■ 釧路教会

3年半代務者を続けて来た青砥好夫牧師が主任担任教師となりました。昨年7月に教会総会を行い決定しすべての手続を終えましたが今の所まだ就任式を行っていません(3月現在)。

教会の状況は前回報告した内容とは変わらず、まだ何年かは後任者を迎えられる状態にはありません。もう一年何とか凌ぐことが出来たならば少しは新しい流れが生まれて来ると思います。

■ 春採教会

2012年度も神様から溢れる恵みを頂いた。

まず4月30日に行われた北海教区総会で、田村毅朗伝道師が按手を受領し、牧師としての歩みをスタートさせた。5月20日には教区幹事の日向恭司牧師の司式、説教により牧師就任式が行われた。そして、翌週の5月27日ペンテコステ礼拝で一名、8月12日主日礼拝で一名、さらに12月23日クリスマス礼拝では二名が受洗に導かれた。また、3月31日のイースター礼拝では転入会者一名が与えられた。

10月13日には、婦人会主催のバザーを、翌14日には、9月に購入したオルガンの奉献コンサートを行った(演奏者:鎌倉雪ノ下教会オルガニスト山本由香子姉)。

教会学校運営にも力を注いだ。特に今年度より、部活動等で朝礼拝への出席が困難な中高生を覚えて中高科夕礼拝を開始したことで、中高生も教会から離れることなく教会学校に通い続けている。幼小科も少しずつ出席者が増加し感謝である。

また、春採教会と歩みを共にしている湖畔幼稚園も、主の祝福の中、一年間の保育を修了することが許された。

新年度も、道東地区諸教会と共に、祈り励ましあって歩んでいきたい。

■ 中標津伝道所

教会総会(4/22)において、毎年教会員案より選出された「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネ 15:16)を目標聖句に歩んだ一年でした。

当初教会員10名で出発しましたが外国に仕事で行かれた方、他に転出・転入などの異動がありましたが年度末には又10名となりました。

昨年度創立20周年を迎え、2年目は、特に教会史に大切な方々との設立のあゆみをうかがう時を3回もち、貴重な資料も与えられました。これはさらに、次年度に継続。

毎年来堂くださる道北センターの諸先生方、今年は藤吉求理子主事に説教していただき、豊かな愛餐と交わりの時をもつことができました(5/20)。年3回教会員の「証し」を中心とした礼拝を持ちました。毎年実施されているブロック交流会は、いつもより遅い時期となり、中標津伝道所を会場に、はじめて室内で。やはり大空の下にまざる

事はないなど実感。主日礼拝を何よりも大切に守られ、その後の時間交わりを中心に、全体祈祷会、婦人の会、全体話し合いを持っていますが、全体一日修養会をはじめ持ち、交わりとこれからの教会について多面的に語り合うことができました。

1,200円になったチーズも、これまでと変わりなく協力を頂くことに感謝しつつ、これからの教会形成をどうしていくか、急務です。

■ 帯広教会

2012年度は「20年後の帯広教会存続のために祈ろう」を年題として掲げ、教会がもう一度原点に立ち返って、主の宣教の業に大胆に参与し、深く成長させられていくことを願っての年でした。教会が「高齢化」・人口減少等によって時代的にも岐路にあることは確かです。教会がこれから先も存続するためには、宣教の新しいビジョンとアイデア・財政問題を本気になって考え、いかに実行していけるか、緊急課題となっています。そのことへの理解が与えられるまで、この年題を継続したいと思います。

今年度も、とがちキリスト者平和の会主催の平和集会(8・15)、思想と信教の自由の集い(2・11)への参加、とがちエテケカンパの会への取り組み、「アイヌ民族学習会」を継続して行うことができ、北海道外キ連夏のキャラバンが当教会で行われたことも感謝です。また、十勝仏教者研修会に講師として招かれたことも記憶に残ります。クリスマスに受洗者2名・転入者1名を与えられて励まされ、教会に新しい方々が来れるきっかけ作りをこれからも行っていく予定です。楽しい教会、楽しい宣教活動、楽しく真剣な社会活動をと願って、新年度も教会活動に取り組みたいと願います。

■ 新得教会

①井上薫氏の講演や竹佐古真希氏を迎えての奏楽講習会&演奏会など、外部からの講師を迎える機会を何度か与えられました。それぞれ数十名の出席者があり、バザー等とあわせて教会の存在を地域に伝えるよい機会となりました。

②地域のニーズを具体的に汲み取りつつ、教会員の意識を共有して宣教の足場を固めていくことが、重要な課題です。経済的な問題も変わらずある中で、どのように将来の展望を描いていくのか、この数年が大事な時でしょう。

③昨年に引き続き定期的に教会懇談会を開催。みんなで自由に話し合う中から、讃美の充実や参加型の聖書の学びなど、一人一人の信徒が主体となる新しい教会形成が、少しずつ始まって来ているようです。現れてきた変化の芽を大切に育てていく一年としたいです。

【石狩空知地区】

■ 滝川二の坂伝道所

創立 25 年目のこの年、開設時より熱心な祈りと奉仕によって伝道所を支えてこられた方が天に召されました。このことは、小規模な伝道所にあつて皆がいつも励まされていただけに大きな出来事でした。転会された方もあり現任陪餐会員 7 名となりました。それでも高齢や体調のすぐれないメンバー同士互いに支えあい、礼拝を守り続け、地域とのつながりを求めてきた一年でもあります。特に 3 回にわたり滝川市内在住の方を講師に「原子力の学び」を開催し、改めて放射能や核の問題性について知る時を持ったこと、ここに少人数でも地域の方が参加して下さったことは喜ばしいことでした。また、部落解放祈りの日や 3.11 東日本大震災を覚えての礼拝をまもり、また人権や平和が蔑にされることに対しての各署名や献金を祈りながら続けています。毎月応援教会から送っていただく「こころの友」と教会案内、クリスマスなどの行事案内を地域各戸に配布し続けていますが、直接の成果はあまり見られません。

今後の課題としては、さらに地域に教会の存在を知っていただく方法を見出して新たなメンバーが加えられることと、主の平和が実現するための祈りを継続していくことです。

■ 美唄教会

2012 年度教会総会において、三輪正史牧師・三輪則子牧師の辞任が承認された。両牧師は 15 年間美唄教会と美唄キリスト教学園美唄めぐみ幼稚園のために貴い働きをして下さった。会堂園舎の建替えと牧師館のリフォーム、教会墓地の整備や、アイヌ民族との連帯、沖縄の痛みを分かち合う働き、東日本大震災の復興支援など教会の多くの課題を身をもって示し私たちに導いて下さった。少子化が進む美唄市において「めぐみ幼稚園」が保護者や地域から信頼を得る保育体制を確立して下さった。長い間のご苦労とご奉仕に深く感謝し、新しい歩みの上に神様の祝福がありますようにと祈ります。新牧師招聘に向けて信徒協議会と招聘委員会を何度も開催し、招聘に関しては全てを教区に委ね、教区幹事のご尽力と教会員の祈りが通じ、新年度より木村拓己教師、木村幸牧師をお迎えすることになった。若く希望を持って新たな歩みを始める牧師家族と共に新しい美唄教会の歴史を築いていきたい。2012 年度の主な活動としては、昨年度から始めた信徒学習会を①「第 72 回北海教区総会を終えて」②「日本キリスト教団の現状～合同のとらえなおし」③「子どもの人権問題」信徒学習会④「東北教区被災支援センター エマホボランティア報告と六ヶ所村核燃料リサイクル施設と大間原発の現状」をテーマに 4 回開催した。美唄カトリック教会と共催で今年も『広河隆一「フクシマとチェルノブイリ」写真展』を開催した。

■ 岩見沢教会

○二年続いた豪雪を踏まえ、豪雪被害復旧および対策工事事業に取り組みました。その内、融雪槽工事が終わらず、春から再着工することになりましたので、工事および募金・献金活動共に、継続中です。

○活動の例として、市民や近隣の方達と接点を持つ企画のうち、おもなもののみを次に記します。

◇複数の市民団体・労働団体と共催で、「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会を求める全国署名 街頭署名活動」(5 月)をし、また、「国際平和南空知集会」(10 月)を開催しました。

◇「教会バザー」には、今年度も、栗山教会と岩家連の「と・わーく」が出店すると同時に、「と・わーく」のメンバーがバザー全体の販売も手伝ってくれました(10 月)。

◇講演会[テーマ「いのちの灯消さない!～寿地区から問われていること～」講師:三森妃佐子さん(寿地区センター主事)]を開催しました(11 月・出席 43 名)。

◇一年を通して 6 回、ナルド会主催で「ゆりの会」(昼食を共にする会)を実施してきました。

◇毎月一回土曜日に、「映画を観る会」に会堂を無償貸与する形で、映画会を開催してきました。多くの人にとって、「居やすい場所」になればと願っています。

■ 栗山教会

○昨年に引き続き礼拝時間を午後 3 時からとし、地区の牧師また信徒の方々の礼拝への応援をいただきながら続けることができました。また月一回は、分かち合いの礼拝をおこなってきました。

○8 月 26 日に行われた島松伝道所、千歳栄光教会、栗山教会の 3 教会合同礼拝が昨年度に引き続き千歳市の高陽牧場で開催されました。教会がよい状態の時も大変な時もこの集いが 23 年間続いてきていることを思い再び感謝しました。

○11 月 17 日 栗山のカルチャープラザ「E k i」において石狩・空知地区信徒大会が開催されました。今年度は栗山教会が事務局担当でした。

○会堂改築の返済金への取り組みとして、本年度も玄米酢の販売の継続、岩見沢教会バザー、札幌北光教会バザーに出店させていただきました。

○教会報「栗山通信」の編集作業を 10 月中旬から開始、11 月下旬から発送作業が行われました。

○まだまだ会堂建築会計の返済計画への取り組みは続けて行かなければなりません、栗山教会を覚えて祈り、捧げて下さる多くの方々のあること本当に感謝です。

■ 江別教会

2012 年度イエス様に与えられた教会形成目標は、「伝道する教会」であり、また、示された年度主題聖句は、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」(使徒言行録 1:8)、「わたしは柔和で謙遜な者だから、わ

たしの軛を負い、わたしに学びなさい」(マタイ 11:29)でした。

早いもので牧師就任丸5年が経ちました。7月に5年の振り返りとこれからの展望ということで役員会においても、また教会全体の懇談会において話し合う時間を持ちました。高齢や病気のために教会へ来られなくなる方が増えています。また二人の兄弟姉妹を天にお送りしました。このような事情で礼拝出席者が減少傾向にあります。礼拝に来られない方に対してご家庭や病床を問安し、共に祈り、み言葉に聞き、礼拝をするなどフォローが課題となります。しかし救われる方も起こされました。3人の受洗者と1人の幼児洗礼者が与えられ、大きな励みとなりました。

イエス・キリストの福音を聞いて江別に住んでいる人たちの大勢が救われることを願っています。まず、伝道へと導かれるのは聖霊です。ですから教会に連なる一人一人が聖霊の恵みを受け、そのことによってキリストの十字架の愛と復活の命が自分に差し向けられた救いとしてリアルに体験することが大切です。聖霊が教会に、一つ一つの枝に臨まれるには祈りが鍵です。そして2年前に始めた早天祈禱会が定着し、朝毎に数人の兄弟姉妹が出席して、聖霊を求め、とりなしの祈りをする一年の歩みでした。新しい年度も主イエス様の福音を聖霊の導きと力によって宣べ伝えて行く群れとして歩んでいきます。

■ 野幌教会

2012年度の歩みも、主の守りと導きに感謝だった。他方、召天された方々が4名(内1名客員)、転出等も続いたことは、大きな淋しさであった。

近年、とわの森三愛高校等の学生さんの礼拝出席の増加傾向が与えられてきている。12年度も11年度並みだったが、礼拝等への定着までは与えられていない。種まきの業ではあるが、丁寧につまみ育てたい。また、特別伝道礼拝(6月五味一教師、12月森宏士教師)や、江別教会との合同クリスマスコンサート(12月)によって、学生や地域の方々への伝道を実施した。

教会学校は、数年来、教会員からスタッフが与えられることを願ってきた中、2名を与えられ感謝だった。子どもの出席は減少傾向だが、幼稚園・学童保育等におけるつながりを大切に、働きを進めてゆきたい。社会的課題については、9条の会等の市民集會に、参加を呼び掛けることを行ってきた。

先述の会員減少に高齢化もあって、財政面ではさらに厳しく、より大幅な予算縮小を検討している。なお、3月末で任期を終えて帰国された朴美愛宣教師(教務教師・酪農学園大学)が、5年間、野幌教会の礼拝と交わりに参加下さり、大きな感謝だった。主日礼拝や教会学校礼拝等でもご奉仕をいただいた。

【札幌地区】

■ 札幌教会

■ 札幌北光教会

札幌北光教会は2012年度の宣教方針を「日々の生活に主を覚え、豊かな恵みに感謝し、祈りつつ、力を合わせて宣教の業に励みましょう」とし、年間聖句を「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ書 43章19節)と定めて様々な取り組みを行ってきました。

改修の終わった会堂はそれをどう用いるかということに意味があるのだから、新しい器にふさわしい宣教活動を行っていききたいという思いの込められた宣教方針であり、年間聖句でした。

その方針に従って、とても多様で豊かな宣教活動を行うことができたと評価しています。何よりも毎回の礼拝がより豊かなものになることを目指して、さまざまな取り組みと改善を行ってきました。ペンテコステ礼拝の夕拝は30名を超える参加者があり、しかもその半数以上が若い世代の人たちでした。特別な事柄が重なったということもあるのですが、とてもうれしい礼拝でした。花の日・こどもの日礼拝は子どもたちを中心にしたプログラムを考え、平和主日礼拝には朴美愛牧師(酪農学園大学)に来ていただき、クリスマス賛美礼拝には北星学園女子中高ハンドベルクワイヤーに出演いただくなど、工夫を凝らした礼拝を行い、一人でも多くの人に福音を伝えることを志してきました。

また、学びのプログラムではこれまでの祈りの集い、ナイトプログラム、入門講座に加えてモーニングプログラムという日曜朝の企画をして、信徒たちを中心にして北海道宣教に関係する「歴史人物伝」を学びました。祈りの集いについても参加者が増えていることはうれしいことです。数だけではなく、その学びの中から洗礼へと導かれるひとが生まれています。

そのような歩みの中で今年度は9名の洗礼者、6名の転入会者が与えられ、神の導きに感謝しました。3年間良い働きをしてくれた松村さおり教師を長野市愛和病院のチャプレンとして送り出し、新しく高濱心吾さん、高濱梨紗さんを教師として迎えることになりました。

■ 札幌中央教会

1. 2012年度の主な動き

教会活動の基本は、「真の礼拝を捧げる教会」であり、この方針を8委員会で積極的に活動し、支えた。

今年度3名の教会員が天に召されたが、転入会と洗礼式によって2名の教会員が新たに群れに加えられたことは、主の奇しき恵みであった。

特に、今年度は教会創立40周年を迎えた記念すべき年で、1年前から準備してきた記念事業の実施の年であった。

①創立四十周年記念誌「四十年の歩み」の発行。②教会外

壁等の補修工事。③創立四十周年記念特別伝道集会。の3事業が恵みのうちに行われたことは、教会の大きな喜びであった。

2. 当面する大きな課題

様々な事情で、礼拝に出席できない教会員が増えてくる。このような方々に如何にして御言葉を届けるかが課題である。また、普段の教会活動の中で如何にして伝道を進めるかに取り組みたい。

3. 活動方針

2013年度は、「互いに仕え合う教会」の形成を目指して活動する。教会員の年齢が年々高まるが、兄弟姉妹が互いに愛し合い、それぞれの賜物を生かし、仕え合って、ひとつの信仰を守り抜く歩みを、実践したい。

また、礼拝に出席できない教会員にも、御言葉を届ける手段を増やしていきたい。録音テープや、ホームページなどを活用する。

■ 西札幌伝道所

札幌地区の方々には大きなご支援をいただいています。ここから感謝いたします。

当伝道所は両貝行麿教師から丸山澄夫教師に代わります。これにともなって現任陪餐会員を整備して財務をとどのえる手立てを確認しました。

宣教の方策は新年度にみなで考えます。これからも一層ご支援ください。また地区教師の方々にはこれからも当伝道所の宣教は地区活動の一環として、もっとも小さな信仰をめざす群れとしておおぼえくださるようお願いいたします。

■ 十二使徒教会

2012年度は、契約改定（2011年4月）後の2年目の年でした。2.5ヶ月の夏の牧師不在と2ヶ月の冬の牧師不在の間、役員会をはじめ、財務委員会、土地建物委員会、喫茶エクレシア、受付チーム（司会者のアレンジ、聖餐式準備と片付け、ランチ奉仕、教会お掃除）チーム、礼拝奉仕（週報、奏楽、テーゼ、司会等）チーム、地区教会連絡奉仕者、また、様々な教会員、教友を通して、教会の礼拝、運営等が、自主性、主体性、責任の所在明確化、機能性、協働性が増した奉仕をしていただきました。特に、今年の財務委員会は、役員会の特別な委任を受けて、2013年5月の臨時総会に向けて、2014年度-2017年度の暫定3年間（2017年度に財政回復後の新牧師招聘の準備訓練期間）に関して、何人かの役員の出席を加えてミーティングをもち、幾度となく教会議会（懇談会）を主催し、ヒアリング、インフォーマルなスモールテーブルミーティングを通して、教会会員の群れの声を聞き、識別し精査しました。将来の展望に加え、多くの精神的な病の人々への牧会宣教を他の教会以上に、創立以来から使命を与えられていることを再認識しました。一人一人を、大切な存在として、お互いへの暖かい理解を分かち合い、教会の使命を機会ある

ごとに促すことができる1年間でありました。

■ 月寒教会

① 2012年度の主な動き

本年度5月の教区総会において石垣弘毅教師が按手を受け正教師となりました。皆様からのお祈りとご支援を心から感謝いたします。また、函館千歳教会、東札幌教会との講壇交換・教会間交流が行われたことも感謝でした。教会、幼稚園舎の耐震診断調査を実施し、当面は現状施設の利用が確認できたことは感謝なことでした。

② 当面する大きな課題・今後の方針など

教会の中核を担ってきた会員の方々が年齢を重ねています。次の世代を担う信徒の充実、教会が併設する幼稚園をはじめ、地域に開かれた教会形成、宣教を覚えて祈り求めています。

2013年度は石垣弘毅牧師を迎えて5年目の節目を迎えます。今までの歩みを振り返りつつ、新たな歩みに向けて準備していく事を祈ります。

■ 厚別教会

2012年度は大坪信章牧師を協力牧師として迎え、教会の在り方を改めて確認した2011年度からさらに歩を進めました。キリスト教学校の生徒・学生の出席する主日礼拝の取り組み課題は継続しつつ、イースター・ペンテコステ・クリスマス礼拝や、永眠者記念礼拝・葬儀の在り方を模索した歩みでした。

伝道開始50年目を迎える2013年度は、老朽化が目立っている会堂と園舎の改築構想も含め、ひばりが丘明星幼稚園と共に連携した地域伝道展望を描くことが求められています。当面、委員会を発足し、記念誌の製作等に着手することで、これまでの主と共にあった歩みを振り返り、50周年を迎える2014年度に向けた展望を検討します。

■ 東札幌教会

2012年度東札幌教会は創立55周年、黒田牧師任期一期満了を迎える節目の年でした。その中で家庭的雰囲気大切に、新来会者やこれまで教会に心を寄せて下さる信徒以外の方々など、共に礼拝を守ることができ感謝でした。

活動としては、9月に教会バザー、10月は例年のように、ひきこもり問題講演会とシンポジウム、12月北海道合唱団協力のもと、「うた声喫茶」を開催、また他団体のコンサート会場として提供するなど、地域に開かれた教会としての歩みをいたしました。特にバザーは皆で力を合わせ、地区大会や年頭修養会、月寒教会クリスマスバザーに参加出席するなど、大変盛り上がりしました。またそれらの経過の中から、西オーストラリア産のミネラル塩、教会前庭の胡桃で信徒手造りのストラップなど、教会グッズ（一部震災支援献金）として販売できるようになりました。

教会財政は厳しく、教区謝儀保障、地区宣教協力献金をいただけたことは感謝でした。その状況下で黒田牧師任期

満了にどう対処すべきか、教会全体懇談会を三回開き話し合い、教会員は任期継続を切望しつつも、一方で謝儀を満額差し上げられぬ財政の厳しさの狭間で、苦悶しました。黒田牧師は任期継続、教区謝儀保障と地区の宣教協力献金は辞退、不足分はアルバイトで補うとの大変な決断を下されました。来年度も東札幌教会は牧師、信徒一丸となって主を仰ぎ、祈りを合わせます。

■ 真駒内教会

2012年度の教会目標は、「主を喜び祝う」（ネヘミヤ8:10）でした。一昨年の東日本大震災の悲嘆から立ち上がる力の源を、復活の主を喜び祝う礼拝に求めつつ歩みました。

6月の地区間交換講壇には寺田恵英牧師夫妻（元浦河教会）、大久保進・澄子夫妻を囲む会、7月・3月には高橋一先生（酪農学園大学）の礼拝奉仕、8月の創立記念礼拝には林田義行宣教師（台湾・高雄日語教会）、11月には榎本恵牧師（アシュラムセンター）を迎えることが出来ました。また、7月に日本盲人キリスト教伝道協議会の全国修養会が札幌で開催され、真駒内教会は事務局を担当し、ボランティアとして全面的に協力しました。さらに、農村伝道神学校の北口沙弥香神学生を祈りに覚え、引き続き支援しました。

2名の転入会者が与えられ、4名の転出者がありました。祈祷会、四地区の家庭集会、入門講座、讃美歌をうたう会も豊かに用いられています。また、8月には平和聖日礼拝と平和祈祷会をもち、2月の信教の自由を守る2・11札幌集会にも参加し、平和憲法の遵守と信教の自由を祈り求めました。

教会学校と幼稚園の活動を通して地域への宣教に励みました。教会学校は、イースター、母の日、野外合同礼拝、夏期学校、子ども祝福式、クリスマス、雪遊びなど、信仰継承の場としても用いられています。また、6月と10月に「いどばたセミナー」を開催し、写真を楽しむ講座、認知症についてのお話を聞きました。

■ 札幌元町教会

おとなも子ども主体的に礼拝に参加できるように願い、1年間の準備期間を経て4月に礼拝式順を変更しました。教会暦を意識しつつ豊かな礼拝を守ることが出来ました。

一年を通して平均22名の礼拝が守れたことは感謝です。大幅に出席数が減った2010年度以降、着実に増えています。各委員会を核とした宣教の諸活動も概ね年度計画に沿って行うことができました。長年行ってきた子育ての会から育った子どもや地域の子どもたちが、子ども委員会の催しに参加しています。クリスマスには23名の子どもが集まりました。

新たな働きとして、交わり委員会で「オープンチャーチ」を実施しました。第3水曜日の午前10時半から3時まで、教会を解放しお茶を飲みながら自由に過せる場を提供して

います。まだ顔なじみの人のみですが、信徒のよき交わりの場にもなりました。一昨年から始めた交わりの会（礼拝後に少人数で近況を聞き合い互いに祈り合う）も定着してきました。

一方で、病気や老いや家族の看病のため、また仕事のために教会に来ることのできない方々がいます。また、委員会活動が多い主日の慌ただしさを憂える声も聞こえます。関係を密にした連帯ができるのは小規模教会の恵みです。つながり祈り合い、互いの信仰を支え合う場をさらに創出すると共に、少人数での教会形成の在り方について議論を重ねていくことが求められます。

ペンテコステに青年が洗礼を受けたことは大きな喜びでした。しかし12月に一人の兄弟が天に召されました。財政面では大幅な赤字が予想されましたが、教会員の努力と地区の宣教協力に支えられ必要が満たされました。

3月31日をもって、浅居正信牧師と横田法子牧師が辞任しました。浅居牧師は当教会で10年間の役割を終え、新たな宣教の場として近江兄弟社学園中学高等学校へと赴かれました。横田法子牧師は牧師代務者として2013年度も元町教会と歩みを共にされます。新たな牧師招聘を見据えつつ、当教会に与えられてきた恵みを醸成させていけるようなビジョンを描いていきたいと願っています。財政の厳しさも続きますが地区教区の支えを頂きつつ、希望を抱いて歩み出したいと思います。

■ 麻生教会

2012年度の主な動き：今年度内の会員異動は逝去者1名、受洗者1名、転入者2名。創立50周年を主に感謝。2013年度に向けた祈りと願い：主のお導きにより与えられた新任の伝道者一家と共に成長する教会となる。年長の兄妹たちの健康、礼拝生活をお支えしていきたい。十字架につけられたキリストを宣べ伝える。教団教区地区が、主にある信頼関係を回復することを祈り求める。教会と幼稚園が主から預かった子どもたちを、キリストの道に従うよう教え育てる。教会学校・幼児教育をはじめ地域・社会活動に奉仕し、人々を救い主に導くよう励む。青年伝道に力を注ぐ。

■ 札幌北部教会

2012年度は久世そらち牧師就任10年目でした。招聘の際の申し合わせで、「任期は設けないが、5年ごとに総括を行う」ことになっていました。そこで、教会員全員にアンケート（牧師について、教会について、信徒について）を行い、懇談会・修養会をあわせて3回実施しました。

その結果、久世牧師をどうのこうの、という話にはありませんでしたが、牧師の本音や、自分以外の教会員の思いなどを知り、語ることができ、今後これまではひと味違った教会生活、教会形成がなされていくことを確信しました。どの教会も同じでしょうが、高齢化が進んでいることへの心配りが必要となっています。ただ、自分が高齢者＝ケ

アされる側、とは思っていない人も多いようで、頼もしい限りです。これからも大いに頼りたい。

「太平子どもの家」は、引き続き多くの子どもたちが集まり、地域の中での教会の存在感を高めています。クリスマスイブ礼拝は、出席者の半数が子どもの家関係者（ふだん礼拝には来ていない人たち）でした。このつながりをもう一步、二歩前へ！というのが毎年の課題です。

2013年度も、地域の中に根ざし、教区内の教会と連携して、神さまの見まもりを確信しながら、おとなも子どもも一緒に、力強く元気に歩む札幌北部教会でありたい。

■ 琴似中央通教会

昨年度は、一昨年度に引き続いて「わたしは弱いときこそ強い」を年間標語にした。多くの方が生き辛さを抱えるこの世界で、神の支えを受けつつ、互いにつながり、生き合っようとして歩んだ一年であった。

この一年では一名の方が受洗され、三名の方が転入された。教会の群れに加えられる方が与えられたことは大きな喜びであり、感謝であった。

今年度から置戸教会との宣教協力が始められた。置戸教会・北見望が丘教会・札幌北光教会・琴似中央通教会の4教会で行った。内容は、昨年度から置戸教会宣教主事となられた荒谷陽子さんが教会での働きを学ぶことができるようにというものであった。具体的には年に4・5回荒谷さんに札幌に来ていただき、札幌北光教会乃至は琴似中央通教会で研修、メッセージをしていただく。一方、荒谷さんが札幌に来られた時は、札幌北光教会乃至は琴似中央通教会の牧師と信徒数名が置戸に行き、置戸教会で礼拝をささげるといったものであった。

琴似中央通教会は12/9に礼拝交流を行った。この試みによって改めて連帯の力と大切さを知らされた。今年度もこの協力を続ける予定である。

9/23には特別伝道集会を行った。伊藤大道牧師（興部伝道所）をお招きして「揺り動かされるもの」と題し、震災直後に支援活動をされた体験を基に講演をいただいた。東日本大震災を忘れないことの大切さを確認する時となった。

今年度は「主を待ち望む」を年間標語、哀歌3章22－24節を年間聖句にして歩むこととした。

多くの方が困難さを抱えるこの世界、主に信頼し、「主を待ち望み」、託された働きを忠実になし続けて行く。そして、共に生き合い支え合う共同体でありたい。

■ 札幌富丘伝道所

2012年の札幌富丘伝道所は、手稲はこぶね教会との兼牧体制という、新しい試みを牧師と共に行った1年でした。月に2回の主任牧師との礼拝、その牧師は手稲はこぶね教会に居住しており（ディヴァン・スクルマン宣教師は居住されておられます）、日々在宅しているわけではありません。その中で、信徒が自主的に教会の事を考え、祈り、

行動した1年でもありました。

1年間の主な働きとして挙げられるのは、ライアー（楽器）コンサート、教会バザーです。2つとも地域に開かれた教会というテーマで開催し、近隣の教会の方々、そして地域の方々も出席して頂き感謝でした。

そのほかに、教会の改装・改修を行い、墓地を新しく簾舞霊園に建てました。教会の屋根が傷んで雨漏りする状態であったために早急に改修しました。また同時期に十字架のライトアップや玄関ドアの掛け替え、駐車場のレイアウトの変更と多くの工事を行いました。これらは地域に対して教会の存在をアピールするのが目的です。また念願でもあった教会墓地で、10月には墓前礼拝を感謝のうちに終えることができました。

札幌富丘伝道所は、皆様の祈りと支えによって元気を与えられ活動しています。そのことに感謝しつつ、2013年度はさらに地域と繋がる教会として歩みたいと願っています。

■ 手稲はこぶね教会

2012年度の手稲はこぶね教会は、札幌富丘伝道所との兼牧体制という、新しい試みを牧師と共に行った1年でした。しかしながら、今までの礼拝の内容や季節毎の行事、各委員会（伝道、礼拝、奉仕、クリスマス）の働きを滞りなく行うことが出来たのは、兼牧体制を前向きに捉えた結果であろうと思います。

1年間の主な動きとしては、春は総会、夏は家族交流礼拝と焼き肉パーティ、秋は墓前礼拝、冬はクリスマス諸行事がありました。これらには、懐かしい方々の姿や、教会員のご家族、そして初めて教会に来て下さった方々もおられ、良き交流と讃美の場となりました。

当面する大きな課題は、2つあります。1つは兼牧体制を如何にして維持し、希望と信仰をもって進めていくのかということです。これについては年に1度、札幌富丘伝道所と合同で話し合う機会を設けています。もう1つは、地域の方々とは新しく来られた方々に如何にアプローチしていくかです。地域の方々については、会報を約400部配布し、新しく来られた方々については礼拝後すぐにガーデンタイムを設けて交流の場としています。

2013年度もこの体制を続けつつ、手稲の地で神の栄光と福音を伝えていきたいと願っています。

■ 新発寒教会

2012年度の標語「キリストの言葉に聞き、祈り、伝え、仕える」（主題聖句ローマ10：17）

地区、教区そして新発寒教会に連なる方々のお支えに心から感謝いたします。2012年度、素晴らしいゲストを迎え礼拝をささげることができました。野村永子さん（元新発寒教会員）、片岡輝美さん（会津放射能情報センター代表）、佐原良子さん（心臓病のこどもを守る京都父母の会共同保育所「パンダ園」代表）藤井あけみさん（チャイル

ドライブスペシャリスト、北大病院勤務)のキリスト者としてのいのち、人権、平和をまもる働きに感銘を受け励まされました。伝道をはかり、地域とのつながりを作るためにバザーや、近所の喫茶「じょじょ」との共同企画によるクリスマス会、こどもの教会の土曜集会、12年度の新しい試みとして土曜日の午後に2度「ほっとカフェ」を行いました。「ほっとカフェ」はコンサートや、DVD上映、絵本の読みがたり、懇談など、お茶を飲みながら交わりを深める堅苦しくないプログラムを考えていますが、好評でしたので13年度も実施します。集会案内や教会ニュース、こころの友の地域への個別配布は続けることができました。なお、2016年度に創立50周年をむかえるにあたり、将来の宣教のありかたを教会全体で検討し、創立記念誌発行に向けての学びや会堂について話し合いを重ねています。厳しい教会財政など課題はたくさんありますが、神様からのご委託とチャレンジと受けとめましょう。新年度も豊かに導かれることと思います。祈りつつ前向きに歩みます。

■ 北広島教会

2012年度も、前年度に引き続き教会員それぞれが一步一步主であって心をつにし、キリストと教会に仕える確かなあゆみがなされた年となりました。

7月には北紀吉牧師(愛宕町教会・教団常議員)をお招きし、説教していただきました。力強い聖書の解きあかしを通して、主の慰めのお言葉をいただきました。

信仰が豊かに養われる学びを始めました。現在「日本基督教団信仰告白」を学んでいます。学びを通して信仰告白の意味を再確認し、また今まで気づくことの出来なかった恵みが与えられ、それぞれの信仰生活の充実に寄与しております。

高齢化が進み、病と闘っている方々、また介護に当たっておられる方々もおり、毎週礼拝に出席するのが困難になっている方も増えていますが、新来会者が与えられるように、洗礼を受け、教会の枝につながる方が備えられますよう祈っております。

教会創立時からの会員が召天されました。創立当初からの会員を天に送るのは、特に寂しさを覚えますが、北広島教会がこの地に建てられた主よりの召しを再度見つめ、キリスト教会が大切にしてきたことをこれからも大切にしつつ歩んでいきたいと願っております。

2013年の聖句として「わたしたちはこの地上に永続する都を持っておらず、来るべき都を探し求めているのです。」(ヘブライ人への手紙13章14節)が与えられました。キリスト者としてどこを目指して歩んでいけばよいか。このみ言葉を通して、来るべき都、神の国を目指して歩いていくことこそがキリスト者の歩むべき道であることがはっきりと示されました。

教会員一人ひとりがこの御言葉を心に留め、主の導きに

従って伝道に励み、ひとりでも多くの魂が救われるために託された務めを果たし、神の国へと向かって歩いていきたいと思っています。

【後志地区】

■ 小樽教会

松浦牧師就任から2年になるようとしている。会員の高齢化は進んでいるが、みなさん元気に信仰生活をされている。しかし、昨年より多くの方たちが病床にあったり、積雪のため教会出席がかなわない高齢の方もおられるということも厳しい現実として受け止めている。今年度より新会堂の建築計画がなされ、3月半ばから旧会堂の解体工事が始まった。新会堂の完成予定は今年の10月末日を目処としている。工事期間中の礼拝は、中央幼稚園の園舎を借りて行っている。

なお中央幼稚園は、新入園児を含め、60名前後の園児を与えられて新年度をスタートできる見込みとなったことは感謝である。地域開放や、プレスクールが、入園につながっていることを感謝。秋に完成予定の新会堂には、中央幼稚園の保育にも利用できる多目的ホールも設置予定である。

■ 小樽公園通教会

2012年度は受洗者はなく、1名の友が帰天しました。高齢の会員が多いため、礼拝出席数も減少傾向にあります。比較的若い世代の求道者も礼拝に出席されています。乳幼児から100歳を目前に控えた会員まで、約1世紀近い年齢の幅がある中で、のんびりと教会生活を送ることができました。

その一方で、財政的に非常に厳しい状態になっています。楽しみながら工夫をし、少しでも教会財政を支えようと会員一同、懸命につとめてきましたが、収入減に加えて古い会堂・牧師館の維持、物価の高騰など、様々な事情が重なる中で、教区の負担金を満額納めきれなくなりました。教区の負担金のために教会活動が圧迫されたり、牧師の人事が影響を受けるのは甚だ本意ではありませんが、次年度は牧師謝儀を大幅に減額し、さらなる工夫と努力をしなければなりません。それぞれ穏やかに楽しく教会生活を送ることができていますが、こうした状況は、確実に教会の活動に影響を及ぼしています。また年度後半には壮年会員に病气や怪我が相次ぎ、心配事が続きました。

年度内にはこうした財政状況逼迫の中ではありましたが、教会創立110周年記念の文集を作成し、お配りすることができました。110年の歴史の重みや、これまで教会を支えてこられた方々の思いをあらためて見つめ、受けとめ直しながら、次の時代に向かっての歩みを進めるために、これからも話し合い、分かち合いを大切にしていきたいと願っています。

■ 小樽聖十字教会

① 2012年度の大きな動き

夏期（7月）と冬期（1月）の二度にわたり、韓国の宣教チームを迎え、1週間の宣教協力をして頂きました。定例集会（祈祷会、ご高齢者の集い）や「韓国教会学校体験」「韓国お正月体験」「コリアンナイト」等を通して教会に初めて来る方々も沢山招かれました。

又、諸行事については、担当チームを編成してそれぞれの準備を委ねる方法を採用して年間行事を行って来ました。この方法は諸行事を進める上で、有効に機能できました。

② 当面する大きな課題

新しい会堂が建てられて6年目に入りますが、様々な事情のため、返済計画（大口2件）が当初の予定通りに進まず、北海教区初め、地区内外諸教会のご協力を頂きながら何とか年度内に完納できました。2013年度も主の導きを祈りつつ進んで参ります。

③ 活動方針

伝道、祈り、交わり、学びの4項目に分けて宣教活動のためのリーダー研修や諸集会の充実、地域との交流を深めるためのプログラムを作ると共に、韓国宣教チームをお招きして特に未だ教会へ来たことのない方々への宣教に力を入れる。

■ 手宮教会

手宮教会は、伝道集会として7月に「さんび礼拝」を小樽聖十字教会のキッズバンドの皆さんに、10月に北星女子中・高等学校のハンドベルクワイヤの皆さんに演奏会をしていただいた。讚美に導かれてさまざまな方が教会へ来てくださることを願っての実施だった。クリスマスやイースターに来られる方が聞きに来てくださった方が来てくださった。卒園生が1名、演奏会を知って来てくれた。ひとつひとつの出会いと関わりを大切にしたい。雪の多い冬、教会員の体調不良が目立った。冬期間、教会への坂道が上がれないので礼拝出席のできない会員が増えた。対策として礼拝に出席できない会員のところで家庭集会を実施した。今後はこのような集会が多く必要になると思われる。幼稚園は、最終的には46名の園児が与えられ、元気な園児の声がいつも響いていた。特徴は途中入園の三歳児が多かったことである。細やかな配慮が求められ、緊張が続いた。地域は、幼稚園を通して教会が何をしようとしているのか理解してくれている。キリスト教保育は真実に子どもと向き合っていると理解され、信頼を培ってきていることが年々見えてきて感謝である。幼稚園の働きを、教会が祈り支えるという姿勢がこれからも大切であると確認している。

■ 余市教会

2012年度から5か年間宣教方針「地域に必要とされる教会として」と7つの宣教の柱、①礼拝をより豊かに②リタ幼稚園、教会学校のこどもたちと共に③北星余市高

校の学生たちと共に④教会員ひとりひとりがおぼえて祈り合う⑤「与えられていること」に感謝する⑥地区、教区の働きを共に担う⑦平和をつくりだすをもって歩み始めました。

この中でも、北星余市高校との関係作りについては特に意識をしてきました。わたしたちが、北星余市高校の働きを支えるために今できることは、その働きを地域の皆さんに知っていただくことだと考えました。具体的には、5月と10月に「北星デー」を開催し、教職員の方々から北星余市が今日指している教育についての話を聴き、知る時を持ちました。

8月の地区信徒大会では、当教会が担当ということで、北星余市高校をテーマにし、体育館を会場としてお借りし、開催することを試みました。また、2月には当教会と幼稚園の屋根の雪おろし作業を3名の高校生たちが快く手伝って下さいました。これらの働きを通して、顔が互いにわかる高校生が少しずつ増えてきたことは嬉しいことです。そして、何よりも継続的に数名の高校生たちと共に礼拝をささげる喜びが与えられていることに励まされる1年となりました。次年度も「地道に」関係づくりに取り組んでいきたいと考えています。

2012年度、教会員の中で100歳を迎えた方がおられました。その姿に60、70歳代の方から「70歳なんてまだ若いね」との言葉が飛び出すほど、励まされました。高齢化の中にあっても、それぞれができることを担い、支え合う教会を次年度も目指したいものです。

共に働くリタ幼稚園は、園児数の低下に伴い、財政的にも低迷しています。しかしながら、次年度は新しい態勢をつくり、子どもたちを取り巻く環境が急速に変化していく時代だからこそ、キリスト教を土台に据えた、「子どもたちのための」幼稚園を目指して新たな歩み始めることになりました。おぼえてお祈りください。

■ 岩内教会

< 2012年度の主な活動 >

今年度は特に大きな変化はありませんでしたが、以下のことが行われました。①「何でも皆で協力して行う」教会運営が継続しています。隔週での礼拝後の会堂掃除も定着しました。②礼拝後に行われる讚美歌練習によって、皆で歌えるレパトリーが増えて来ました。現住陪餐会員22名の中で礼拝出席者が10人を切ることなく捧げられているのは嬉しいことです。③教会学校は低調で礼拝出席0名が続いています。夏期学校はスタッフ確保の面で実施が困難になりました。④信徒修養会では「教会史」を学びました。信仰の先達たちの足跡を辿るとともに、私たちの信仰を確認する時となっています。⑤会場使用料などの諸規定の見直しを行い、教会定期総会に議案として提出しました。⑥墓石のコーキング修理及び花台を設置しました。

幼稚園は、①今年度は久しぶりに60名を越え63名と

なりました。②国の補助を受けて非構造物(外壁)の耐震化工事と、窓サッシのエコ化(2重ガラス樹脂サッシに取り替え)工事を行いました。建物全体が明るくなり、室内も保温性が向上しました。

＜2013年度計画＞

教会：①讃美歌練習と「教会史」の学びを継続します。②礼拝司会を教会員皆で順番に担います。幼稚園：①「学校評価」(自己評価及び学校関係者評価)から見えてきた課題(地震・津波避難マニュアルの見直し及び避難訓練の充実。保護者研修会の実施「発達障害をもつ子どもへの理解」。園内研修の実施等)に取り組みます。②園庭フェンスの修理・拡張工事を行います。

■ 倶知安伝道所

2012年度は牧師の交代で始まりました。6月24日に牧師就任式を執行しました。63名の出席でした。当面の目標として、教団の教会歴を使用し、礼拝出席者の有無にかかわらず、主日礼拝を守る事を優先しました。また、教会の関係者に週報・月報を毎月発送し、近況報告とし季節献金を促す。

赴任後の変更点は、礼拝讃美歌を讃美歌21に変更しました。礼拝の充実をめざし前奏・後奏にオルガン曲を用いました。奏楽者がいないのでmidi(コンピュータによる演奏)を使用しています。教会玄関に説教題、今週の聖句を掲示しています。月報「羊蹄山の麓から」を発行、発送(180部)。牧師館を買い換え教会の隣接地に転居しました。

後志地区伝道協力委員会の支援で、4月にパソコン購入(奏楽にも使用)、雪下ろしツアーは1月26日、2月2日、2月9日と三回実施。地区の支援を感謝。

礼拝出席者は、教会員2名とニセコに来る夏期長期滞在者が中心でしたが、転入者を加え少し安定しました。

近隣の課題としては、HPを立ち上げ、旅行者・滞在者へのお知らせを充実したい。と願っています。

めぐみ幼稚園は、新入園児28名、進級児36名、合計64名で新年度を迎えます。幼稚園での最大の苦労は、教員の募集です。ある意味、園児募集よりも困難で、かつ、めぐみ幼稚園に限らない問題です。

【苫小牧地区】

■ 島松伝道所

「弱さを元手に”ひだまり”はじめます」の標語の元、一人ひとりの信仰のあり方を大切にし多くの恵みが与えられた。その一方で、いくつかの課題も残されている。

1. 恵み・感謝

・イースター礼拝、木の教会コンサート、お泊まり会、クリスマス礼拝等を中心に、たくさんの出会いがあり、良い交流の時となった。

・礼拝後、震災の被災地のために「震災ミニバザー」を続けている。

・今年から「当事者研究交流会」が島松伝道所を会場に行われている。医療やさまざまな角度からの当事者研究が進められている。

・会堂、牧師館屋根改修工事のため、地区と教区からの応援をいただいた。

・「しままつ野菜だより」として、たくさんの注文をいただき全国に地元の野菜を送ることができた。

・多くの協力を得て、無事に「島松だより29号」を発行することができた。

・島松宣教協力推進募金第6期の1年目に、地区、教区、全国からの連帯をいただいた。

・教会会計が年度末に大きなマイナスになることを、地区皆に覚えていただいた。

・辻中徹也牧師の司式で、教会員2名の前夜式・葬送式が行われた。

2. 課題

・厳しい教会会計であり、できることを検討しながら墓地積立金からの運用を行った。

教会墓地についても検討していく。

・集會室・トイレ・台所の改修工事、牧師館建築をどうするのか。土地をどう活用していくのか。時期や構想、予算等、教会員みんなで建築について話し合う必要があるが、なかなか集まらない。

・2013年度に創立60周年を迎える。記念史の作成について話し合いを進めていく。

■ 千歳栄光教会

世界聖餐日礼拝の午後には毎年「巡回聖餐」を行なっています。牧師と役員が礼拝に来ることのできない方々を覚えてお訪ねし、共に聖餐の恵みを分かち合うことによって、信仰的な交わりを深めています。近年、病院での入院及び継続的な治療を必要とする教会員が増えています。礼拝にお誘いすることと、訪問の両輪がさらに大切になってくると感じています。

礼拝堂の音響について、個々人の状況に細かく対応することは困難ですが、教会としてできることを取り組んでいきます。会堂は、献堂以来10年以上が経ち、屋根や外の柱の塗り替えなど、長期的展望にたって、メンテナンスを考えていかなければなりません。

必要に応じてクリスマス委員会やバザー委員会はこれまでも行なわれていましたが、数年間、課題となっていました。伝道委員会が行なわれるようになりました。「栄光書簡」の発行とあわせて、礼拝欠席者への週報等の持参や郵送など、地道な活動が教会につながります。

教会財政は、常にきびしさを抱えていますが、教会員の半数以上が年金生活者にもかかわらず、月定献金・特別献金・感謝献金などが積極的に献げられ感謝です。繰り返し

支出を見直し、節約を念頭に置いた収支にしたいと願っています。現状の課題のひとつに、数年間にわたり牧師館家賃の半額を牧師が負担していることがあります。ただ、教会財政を考えると致しかたないと思う面もあります。

千歳栄光学園では、理事会での話し合いとあわせて、理事・園長・教師が、認定こども園について研修を重ねています。新しい事業については、社会情勢の変化も手伝って、試行錯誤を繰り返していますが、学園と教会の関係を大切にしながら、歩んでいきたいと願っています。

■ 苦小牧弥生教会

2012年度も「神さまが招いてくださるから」を教会形成の姿勢として歩みを進めました。一年を通して、子どももおとなも共に礼拝を奉げることができたことを感謝し、み名をほめ讃えます。

礼拝での子どもメッセージを教会員が前年度よりも多くするようになりました。子どもたちが関心を持って聞いている姿は喜びでした。

7月には長いこと教会生活を共にしたお二人を天に送りました。寂しさと共に、信仰生活の在り方など改めて気付かせられた時でもありました。

「信徒大会」の担当教会として、教会員それぞれが自分出来る奉仕をして取り組みました。充分ではなかったと思いますが、多くの参加があり恵みの時となりました。

6月に小林道夫さん、2月にモニカ・メルツォーヴァさんのパイプオルガンコンサートを行いました。かおり幼稚園の子ども達向けのプログラムも別に用意され、オルガンの響きに耳を傾ける良い機会となりました。

土曜日の「遊べる会」、「遊ぼう会」にも少人数ですが、普段教会に来ていない子どもさんも顔を見せるようになっています。スタッフだった木村洋子さんが天に召され痛手でしたが、教会員の協力もあり、地域にある教会として活動を続けられたことは感謝でした。また会堂は、今年も地域の皆さんの合唱の練習、発表会の会場として利用されました。

かおり幼稚園の行事に合流して、バザー、創作展を一緒に行う事ができました。かおり幼稚園と教会の交流の場となっています。創作展には教会を会場にした書道教室の皆さんの作品も発表されました。

牧師が幼稚園園長も兼務しているので様々利点もありますが、多忙です。幼稚園も教会の業も多くを求められる大切なものです。神さまからの知恵と、また力をいただきたいと願っています。

聖さん式の課題は継続しています。重要でまた繊細な課題ですので慎重に進めています。

クリスマスに洗礼者が与えられました。教会はいつも多くの課題を抱えていますが、洗礼式では新たな力をいただき感謝でした。

■ 幌泉教会

① 2012年度の主な動き

2012年度の幌泉教会の礼拝は、礼拝出席者数が3～5名程度の少人数の集まりでしております。継続して礼拝を続けられることを感謝しております。礼拝出席者の動向としては、長らく求道中であった方がお身内のおられる当別町に引っ越すなどのことがありました。礼拝参加が途絶えがちの方などには、自発的に会員相互で連絡を取り合うことをしております。こうした相互の配慮は、小さな教会ならではの家庭的な温かさであると感じております。教会学校礼拝は、通年通り通す子どもの割合は少ないのですが、入れ替わり立ち代わりと子どもたちが通い続けています。地域の行事、部活などの兼ね合いで毎回の礼拝参加者の数の変動がありますが、年平均10名近くの子どもたちが集まります。将来、進学や就職をしてえりも町を離れても信仰に結び付く育ちを大切にしたいと願っています。

② 当面する大きな課題

大きな課題はありません。沿岸部で風雪の影響がある地域です。塩害があるため定期的に屋根などの塗り直しが必要です。補修のための積立はしていますが、強風による被害など想定外の出来事が生じましたら一時的に多額の費用が必要となります。その時には、借入れなど経済的な支援をお願いしたいと思います。

光の園幼稚園は、えりも町で唯一の幼稚園です。幼稚園教員の労務と生活が守られ、園児への良質な教育が維持できることを願っております。

③ 2013年度活動方針

- (1) 子どもたちの信仰への導き
- (2) 日高東部の教会（元浦河教会、浦河伝道所）とのつながりを大切にする

■ 浦河伝道所

2012年度の教育方針は「弱さという恵みを持ち寄り、安心して参加できる教会」を目指して歩きました。

今年度も主日礼拝は、第1日曜日は分かち合い礼拝、これは創世記を1章ずつ輪読しあって、その後感想とまた一週間のあったことを語りあう礼拝です。第2と第4は寺田牧師の説教、第3は地区の応援説教、第5は地区の互助伝道で礼拝を守りました。そうした中で、5月13日（日）は亀井英俊さんの洗礼式が12月23日（日）は八十川光さんの幼児洗礼が行われました。今年度は苦小牧地区の計画で各教会同志の「信徒交流会」があり、私たちの伝道所は千歳栄光教会と交流しました。9月29日（土）千歳栄光教会の皆さんが、ここ浦河までおいで下さる、有意義な信徒交流ができました。毎週土曜日に行っております、「ノンノ学校」も2年目を迎え、スタッフ6～7名、子どもたち7～8名とだんだん軌道にのって来ました。

当面する課題は現在「べてる作業所」のメンバーが主な参加者ですが、これから地域にも道を開いていきたいと思っています。

■ 元浦河教会

2012年度の教会標語は「わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた、前進しましょう」（ガラテヤ 5:25）でした。元浦河教会は今年度教会創立126年を迎えましたが、それは、聖霊に導かれた歩みです。その聖霊のお守りを信じて、歩むことを方針としました。

今年度も主日礼拝は第1と第3は寺田牧師の説教、第2は地区の応援、第3は信徒による証し、第5は地区互助伝道説教で守りました。特別な礼拝として、今年度は二回札幌地区の教会と交換講壇を行いました。6月17日(日)は真駒内教会の田中文宏牧師が、11月18日(日)は札幌北部教会の久世そらち牧師が当教会に来て下さいました。また、12月24日(月)には、毎年恒例のクリスマス賛美礼拝を行いました。今年度も浦河混声合唱団「木曜会」のミニ・コンサートを2部でしていただき、出席は71名でした。

今年度は苦小牧地区の計画で「信徒交流会」が行われ、私達の教会は5名が洞爺湖教会に行き、楽しい有意義な交わりをしました。当面する課題としては教会を継承していく信徒を増やすことです。そのためにも現在教会学校と聖書研究、祈祷会がありませんが、なんとか開けないものかと思っています。

■ 室蘭知利別教会

本年度は牧師交代がありました。石川宣道牧師を室蘭知利別教会主任担任教師に招聘し、石川まなか牧師が室蘭めばえ幼稚園園長と教会担任教師に就任しました。

○年間主題：「安心する教会」

○年間聖句：「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ」（マタイによる福音書 16章17節）

イエス様を救い主と信じる時、抱える事も含めて主の平安が得られます。真の安心が教会で得られるよう、活動しました。

○宣教活動方針：

1. ふれあいと礼拝

① 礼拝と一緒に与りましょう。

・高齢化や個人への対応(手すりの設置、説教原稿の文字化、個人的サポートなど)

・つながりを意識した礼拝(お互いを具体的に祈る、現任陪餐会員1名増)

② 在宅でも大丈夫

・訪問・連絡を取り合ひましょう。

・お互いに祈り合ひましょう。

2. 使命としての幼稚園

① 祈りましょう。

② 交流しましょう。

③ 存在を示します。

昨年の戸外スロープへの手すり設置に続き、玄関内手す

りを設けた。また雨漏りの対処として牧師館2階窓と無落雪屋根排水溝を修繕した。個人的サポート・つながりも意識的に実行され、さらに各種行事を通してつながりが強められ礼拝へと導かれた。より充実した目標達成が今後必要でしょう。

幼稚園とは、バザーやクリスマス音楽会等の教会行事に保護者・園児を誘い、幼稚園おもつきへの教会員の参加や降誕劇の衣装作り協力等があった。幼稚園運営の厳しさが予想される中、より主体的係わりが大切となりそうです。

■ 洞爺湖教会

永沢芳子牧師が1月末日をもって主任担任教師を辞任され、これからどのように洞爺湖教会の活動を行っていくのか、あらためて模索を始めることとなりました。そのような中で、今年度の主題聖句「御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」とのみ言葉が、この一年間の洞爺湖教会の歩みの振り返りとこれからの展望を持つにあたっての、一つの道標となっていることを確認させられています。

今年度において、洞爺湖教会は60周年を迎えました。記念誌の発行など際立った行事は行うことはできませんでしたが、ささやかながらも記念祈祷会(12月30日)を持つことができました。また、2名の転入会者が与えられ感謝です。

洞爺湖教会を長い間支えてこられた加藤福子姉が天に召され、奇しくも主日礼拝という形で告別式を行うことができたのは、大きな慰めとなりました(1月27日)。

小人数で役割を担っていくことの困難さを覚えています。地区や教区とのつながりの中で、それぞれの出来ることから始め、また新たな一歩を踏み出そうと思っています。

【道南地区】

■ 八雲教会

◎新任の渡辺兵衛牧師が、就任式後体調を崩して入院し、「どうなることか」と先行きの不安が募りましたが、回復が与えられ、今後への見通しがついていることを感謝したいと思います。

◎年間目標は掲げず、年間聖句「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ書43:19)を礼拝堂に掲げて歩み出しました。

◎教会役員の負担軽減のため、礼拝司会を役員以外の信徒も担当し、みんなで役割を分担して礼拝が守られていること、「先生、〇〇さんのところへ行きたいので、一緒に行ってください」ということなどが自由に出され、牧師と信徒協同の働きがなされていること、かつての婦人会がだれでも参加できる会に再編され、よい交わりと学びの場になっ

ていること、牧師の「メッセージ」が毎月発行され、教会外の人たちにも読んでもらっていることなど、「新しいこと」がいくつか起こっています。

◎ペンテコステ礼拝で2名の洗礼式が行われ、年度末のイースター礼拝で2名の入会式が行われたこと、教団補教師検定試験でCコース受験中の田中光子姉が2年目の科目を合格したこと、地元開催の年頭修養会にみんなで参加して(11名)交わりを深めたこと、召天者の家族や幼稚園児の母と子どもなど、新来者が数名与えられていることなど、喜びを共にする出来事をいろいろ数えることができました。

■ 利別教会

地震、津波、核問題等の渦中で、信徒が信仰の充実に努める様に、ヨハネ黙示録の聖句を掲げて励む。

伝道礼拝には、留萌宮園伝道所、三浦忠雄牧師を招き説教「土の器」をして頂く。土曜学校夏期キャンプは、立像山キャンプ場で実施。主題「神様の約束」、夜空の星、漁火が美しい。キャンプファイヤーには、父母も参加し40名。大越鉦吉インマヌエル村入植記念碑を神丘開拓基年碑の横に安置し、移設記念式を行う。町関係者列席。

信徒の祈りには、神は応答され、子どもの教会再開嬉しい。町の行事で休むこともあるが細々半年定着している。

10月8日ゴスペルコンサートを開催。出演はザ・ソワーズ。地元男性合唱団共演。「慈しみ深き」を皆唱。

収穫感謝祭礼拝。バザーは国分寺教会や、江差伝道所から多量の献品受領。売上好調。地元米、芋は最好調。

12月23日クリスマス合同礼拝と愛餐会。高齢化に伴い、諸会合は合同礼拝の中でまとめる。説教「飼ひ葉桶のメシア」愛餐会は、持寄りご馳走。町の合唱団や大正琴の方々も終り迄参加。手話付「やさしい目が」を子どもたちが発表。ゴスペルは全員で歌い踊る。サンタクロースはデンマークの美青年。歡喜の歌連発101名。

3月12日アーサー神塚先生追悼記念会が、瀬棚町民センターでもたれる。瀬棚のために尽くされた先生への御恩に感謝して三愛同志会主催。説教「神に選ばれた真の宣教者」。「主われを愛す」等を高らかに歌う予定。

■ 函館教会

2012年度の特別礼拝として、毎年恒例の道南地区交換講壇(6月24日)に利別教会から相良展子牧師を迎え、松本紳一郎伝道師は函館千歳教会に派遣された。また、札幌地区との交換講壇(北広島教会 加藤孔二牧師、10月14日)にも参加させていただき、道内他教会からのよき学びと交流が与えられた。さらに、山北宣久牧師(青山学院院長、7月8日)や、2000年度に代務者をしていただいた松井浩樹教師(東北学院教務教師、10月21日)に説教ご奉仕をいただいたことに感謝する。

さまざまな場面でこれまで奉仕を担って来てくださった方々がご高齢に達せられる中、後継者を得るための祈りを

篤くするところである。懸案の家庭集会をアドヴェントに3箇所で行い、長期にわたり礼拝欠席を余儀なくされている方々と共に礼拝を献げることができたことは感謝であった。新年度には年間を通して定着させたい活動の一つである。

36年前に会員有志によって開設された、「ひいらぎ文庫」(現在は毎月第1、第3土曜日午後)に開館)という地域の子どもたちに向けた絵本閲覧がある。これを小学生時代に体験した人たちが最近、子どもと一緒に訪れるケースが何回もあり、子どもの教会の礼拝定着者が少ない折り、励ましを与えられる。

諸集會出席者の減少に伴う教会財政の逼迫が顕著になり、支出科目の見直しが急務となっている。

教会建物に関しては、会堂雨漏りが激しく、新年度は補修工事を行う予定である。

■ 七飯教会

七飯教会にとって、常任の牧師を迎えてから二年目の歩みもまた感謝あふれる一年であった。年題は、テサロニケの信徒への手紙一5章16節から『喜び、絶えず祈り、感謝する』とし、共に祈り合う教会を心がけた。今年度は、牧師が教区総会の補助書記と北海教区年頭修養会の事務局長を担った。年修では、道南地区の各教会の協力のもと、よき会を持つことが出来、感謝である。

年度内の主な動きとしては、教区の補助金を受け、20年来の課題である建物の塗装が出来たことである。おかげで屋根の雪がスムーズに落ちるようになり、冬の雪対策にとても役立った。また、念願のオーディオ関係の整理修繕も行い、会堂の使い易さもかなり改善された。当面する大きな課題としては、古くなって朽ちてしまった道路沿いの看板の製作および走行距離15万キロの車両買換である。いまだ小人数教会ゆえの経済的困難は続くが、みなさまからの祈りとご支援のもと、しっかりと教会形成に励みたい。また、伝道師である牧師の、秋の正教師試験を控えて、聖餐にあずかれる日々を一同待ち望んでいる。

次年度の活動方針は、それぞれの教会員が信仰の原点にもどり、まことの悔い改めの心と謙遜を身につけて、福音を語る者として、ひとりひとりが強く立たされて行くことである。

主に祈りつつ…。

■ 函館千歳教会

東日本大震災後、教会は地域の人々に親しまれる教会となることを願って、「開かれた教会」をめざしています。その一つとして始めた震災支援喫茶「チャペル」も多くの方の奉仕や協力によって続けられ、まもなく2年目を迎えようとしています。地元の新聞やラジオでも紹介をされ、たくさんの方に利用していただいています。その収益金の中から、すでに60万円を被災地の幼稚園や保育園のために送りました。今後は幼稚園や保育園以外にも枠を広げて、

支援をつづけていきたいと思っています。また、昨年度から教会は、教会堂や教会の部屋をいろいろな集会のために広く利用してもらおうと、教会堂の使用規定を作って案内をしました。早速、演奏会のための使用の申し出があり、今年3月に「リコーダーとリュートのコンサート」が開かれました。その中には、教会にはじめて足を運ばれた方も多くおられました。今後さらに、いろいろな集会に利用していただければと願っています。また、NHK大河ドラマ「八重の桜」の放映に合わせ、3月24日(日)午後同志社大学神学部教授で新島襄・八重の研究者である本井康博先生を迎えて、市民向けの講演会「新島八重の生涯・八重の桜だより」を行いました。これもまた「開かれた教会」をめざす取り組みの一環です。み言葉に聞き、祈ることをとおして、神さまに「開かれた教会」であると同時に、人々の出会いと交わりの場となるような「開かれた教会」をめざしていきたいと思ひます。

■ 江差伝道所

2012年3月に行われた教団の宣教方策会議の席上で石橋議長は「伝道所は教会ではない」と発言をした。それ以来、教会とは何かと考えつつ、江差伝道所の教務に携わって来た。むろん、伝道所は教会である。聖霊によりキリストの体とされ、礼拝が捧げられ、聖礼典が行われてるのだから当たり前である。「伝道所が教会と呼ばれていない」理由があるなら、それは20名の会員を持たず、宗教学法人格を有していないという便宜的なものであって、宣教的な意味合いはまったくない。石橋議長の発言は伝道所の牧師としては気が重くなる言葉だ。この会議に出席したメンバーの中で伝道所に所属するものはわずか2名であった。そういう場所なら石橋議長の言葉をとがめる人は誰もいないのも無理は無い。伝道所は会員の構成も少数なら、教会の会議でもいつも少数者である。

代務牧師体制になったこの2年を振り返り4名の会員で営まれた宣教活動を「やっど」あるいは「なんとか」というような言葉で表現する気はない。むしろ「立派に」「堂々と」とキリストの体なる教会としてこの世に立って来た。それは厳しい社会情勢や想像を絶する吹雪の中でも礼拝に集まり、神とこの世への奉仕を果たしてきた一人一人の信仰の証しである。神がお許しになるかぎりこの営みが絶える事はない。

■ 渡島福島教会

『だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。』(コリント人への第一の手紙15章58節)

2012年度は上記の御言葉を掲げて励んで来ました。

感謝すべきことは、今年の冬も昨年同様大雪の中、先ず、牧師と牧師夫人の信仰と健康が守られたことです。牧師は

病気になることなく一年を通して礼拝説教他にあたることができました。そして、学校法人福島キリスト教学園理事長の責務をも果たすことができました。牧師夫人は、教会のことは勿論、福島幼稚園長としての重責を、河合ゆき江さんの助力をいただきつつ果たすことができました。みなさまのお祈りの賜物と深く感謝いたします。

礼拝者は、昨年に比べ平均1名減少しましたが、滞りなく礼拝、聖書と祈りの会が守られました。牧師は福島幼稚園児と共に、毎週水曜礼拝を年間通して守ることができました。旧約の天地創造から、主の御降誕祭、十字架の贖い、復活祭、聖霊降臨祭を一年を通しての説教、ビデオ等で守ることができました。

辺境にある教会は、この世に接するに幼稚園、保育園を媒体とすることが大であります。ですから、すべての集いは先ず礼拝から始めています。母の会の役員会、諸行事、入園式、卒業式いっさいを礼拝形式をとっています。十三年前に召された息子が世話になった明治学院大学の入学式も礼拝形式でありました。

殉教の北限地、千軒岳連峯冠雪に煙り、春霞に海峡も淀み、津軽富士の姿も見えない。

洞爺丸台風で遭難した犠牲者を悼み、『その知らせ 悲しく聞きてわがわびを、ふせぐ道をば 疾くどこそ祈れ』の御製。書家、鷗亭金子賢蔵謹書の壁掛けが町の福祉会館ロビーに掲げられています。2年後に新幹線が函館にきます。明るいニュースを胸に、この年をも、主のおゆるしのもと励んでまいりたいと願っています。みなさまお祈りください。



第73回北海教区総会で可決された特別決議

【議案 第16号】

憲法改悪阻止の取り組み推進決議に関する件

議案

自民党が2012年4月に公表した「日本国憲法改正草案」等の問題点や危険性について認識を深めつつ、市民の声が政治に反映されるよう、言論活動、広報活動、集会等に積極的に参加する。また、教会内外の個人・団体と連帯して、平和憲法擁護・憲法改悪阻止の活動を行う。

提案理由

昨年12月の総選挙において多数の議席を獲得し、公明党と組んで政権を獲得した自由民主党は、選挙公約で憲法「改正」の方針を掲げ、安倍内閣はその方針を推進することを表明しています。自民党は、結党以来、日本国憲法は占領下に押し付けられた憲法であるとして全面的「改正」をめざしてきましたが、2005年に公表した改憲案のタイトルを「新憲法草案」としたことは、その意図を明確に示していると言えます。また、昨年4月に自民党が発表した「日本国憲法草案」は、日本国憲法の基本原理を改変し、天皇制国家の再現をめざすかのような復古的な内容となっています。

また、安倍首相は1月31日の参議院における答弁で、96条(改正の手続き)をまず改正して憲法改正条件をゆめ、その上で全面改正するという方針を表明しましたが、これは重大な問題を含んでいます。日本国憲法で改正の手続きを厳しく定めているのは、憲法の持つ普遍的な価値を護持するためです。そして、その普遍的価値とは、人間が長いたたかひの成果としてかちとった人権であり、それには、個人の尊厳、自由、平等などの諸原理が含まれます。独裁政治や全体主義によって国家権力が横暴になる時、人権は抑圧され、民主主義は窒息します。憲法はもともと、国家権力による人権の抑圧や侵害を防ぐための基本法でしたし、今もそうです。したがって、「まず96条を変える」という考え方は、憲法の持つ意義を根本的に否定する問題性を持っていると言わなければなりません。実際、今回の「日本国憲法草案」では、現行第97条の「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は…(中略)…現在及び将来の国民に対し、犯すことのできない永久の権利として信託されたものである」を完全に削除していますし、さらに、現行99条の「憲法を尊重し擁護する義務を負う」者から「天皇又は摂政」を除外する一方、国民に憲法の尊重を義務付けています。また、「公益と公の秩序」のために国民の基本的人権を制約することも明確に打ち出しています。これらのことは、「権力の制限規範」という憲法の性格を180度転換し、「権力が従うべき憲法」から「国民を従わせる憲法」に変えようとの意図が明確になっていると言えます。

安倍首相は「戦後レジームからの脱却」を主張していますが、それは戦後民主主義の否定を意味します。領土問題とそれに伴う近隣諸国との関係悪化などを利用することで、軍事大国をめざす動きが強まっています。そのような中で、7月の参院選で改憲派が3分の2以上の議席を獲得すれば、改憲の動きは一気に加速すると予想されます。まさに、参院選は、改憲問題にとって一つの大きな分岐点となります。

ここに、わたしたちは、平和の主の呼びかけに従い、憲法改悪阻止の取り組みを推進しようと決意するものです。

【議案 第17号】

靖国神社問題に対する取り組み推進決議に関する件

議案

憲法「改正」の策動に連動する靖国神社への首相・閣僚の参拝、靖国神社の特殊法人化など、政教分離原則を無効にする動きを阻止するため、首相・閣僚等への要請、参拝を強行した場合の抗議、文書やキャラバンなどによる広報・学習など、考うる最大限の行動を、他教区、他団体と協力して行う。

提案理由

第2次安倍内閣が昨年12月に発足して、6年前の第1次内閣でやり残したもののうち、憲法「改正」など国家

機能の強化の実現が主張されています。また、「(かつての)首相在職中、靖国神社への参拝をしなかったのは、痛恨の極みであった」(12月17日自民党総裁としての記者会見)と言ってはばからないように、安倍首相および閣僚の多くは、改憲と共に靖国参拝を志向しています。

首相の靖国神社参拝は、2006年8月15日の小泉首相参拝以降、中国や韓国からの強い抗議・批判によって行われていませんが、その諸外国の非難より以前に、憲法第20条3項、第89条に抵触する違憲行為であり、もともと、首相や閣僚など公人には許されない行為です。

いま憲法「改正」そのものが浮上する中で、これらを簡単に許すことは、「社会的儀礼又は習俗的行為の範囲」であれば国や地方自治体の関与が許容されるという、政教分離規定を無効にする条項を呼び込むことにつながり、参拝の恒常化は、改憲の先取りとなります。

また、副総理の麻生太郎財務相は、実質靖国神社の国営化となる特殊法人化を公式に主張しています。その狙いは、国家による過去の戦没者への追悼ばかりでなく、集団的自衛権の容認・憲法「改正」によって拡大させようとしている自衛隊の海外派兵にともない、近い将来に生まれるであろう戦没者の、国家による追悼行為に備えようとするものです。

これら憲法「改正」や政教分離原則を踏みにじる動きは、7月の参院選挙後に加速されることが危惧されています。その日を間近に控えたいま、総会として、その動きに抗議するとともに、阻止行動への固い意志を表明するものです。

【議案 第18号】

オスプレイ配備撤回を求めることを通して、沖縄差別のない社会を目指す運動を推進する決議に関する件

議案

米軍のオスプレイ沖縄配備撤回を求め、自衛隊のオスプレイ導入検討に反対していく。また、沖縄差別のない社会を目指すために、学習会や反対行動、また、日米両政府や在沖米軍・自衛隊などへの要請・抗議行動など、考える最大限の行動を、沖縄教区をはじめとする他の教区や諸団体と協力して行う。

提案理由

昨年10月、米軍は垂直離陸輸送機オスプレイを沖縄に配備しました。オスプレイは開発段階から事故を起こし続け、実戦配備の際にも墜落事故を起こすなど、当初からその危険性が指摘されてきました。それにもかかわらず、日米両政府は「安全性に問題はない」との認識を繰り返し、反対する沖縄の圧倒的多数の声を無視する形で、沖縄へのオスプレイ配備を強行しました。これに加えて、防衛相は、2013年度予算案にオスプレイの調査費を計上する方針を立て、自衛隊への配備を検討し始めています。

こうした動きに対して、今年1月22日に開かれた那覇市民大会では、「オスプレイ配備は沖縄への『差別・いじめ』だ」との決議がなされました。また、同27日には、沖縄県内の全41市町村の首長らが、米軍普天間基地に配備されたオスプレイの配備撤回と同基地の県内移設断念を求めて、東京・日比谷公園で集会を開き、オスプレイ配備撤回などを求める「建白書」を、安倍晋三首相に手渡す行動を起こしました。

しかし、日本政府は、こうした沖縄の声を無視し、米軍は、沖縄県内での訓練に続き、3月6日から、全国に存在する飛行訓練空域の一つであり、四国から紀伊半島に設定している「オレンジルート」での低空飛行訓練を行いました。さらに、安倍首相は、米軍普天間基地の「辺野古への移設を進める」ことを明言しています。これは、オスプレイの配備が、辺野古への基地「移設」および東村・高江のヘリパッド建設と一体であることを明らかに示すものであり、そのことによって、「沖縄差別」を加速させていることを、顕わにしています。

わたしたちがオスプレイの配備撤回に取り組むことは、構造的な沖縄差別に「NO!」という声を上げることにほかなりません。そして、何より、わたしたちもまた、沖縄差別を構造的に担っている者であるとの認識に立つことが求められています。わたしたちは、差別する側に立ってきたこと、また、立っていることを悔い改め、キリスト者として、どこに立ち、どのように生きるのかを、いま問われています。オスプレイ配備撤回の問題は、「

沖縄の問題」ではなく、わたしたちの問題であり課題です。積極的に、この課題に取り組んでいくべきであると思います。

【議案 第19号】

アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件

議 案

アイヌ民族の権利回復と差別撤廃の運動を推進するために、以下の事項に取り組む。

1. 学習・研修・交流・連帯活動

(1) アイヌ民族の権利回復と差別撤廃のため、関連する運動や学習会を支援し連帯する。また、集会等に積極的に参加する。

・アイヌ遺骨返還等裁判の協力

(2) アイヌ民族関連の諸資料を収集し、提供する。機関誌(ノヤ)、ホームページ、Eメール、Facebook等を通しての広報。

(3) アイヌ民族の歴史と現状を学ぶ現地研修の企画・実施。原稿執筆等の協力。

・道東地区アイヌ民族フィールド・ワーク(知床)

(4) 講師派遣による学習活動支援

2. 台湾基督長老教会のディヴァン・スクルマン宣教師を支援し、先住民族に関する課題を共有する。

(1) 国家形成や植民地支配により、日本・台湾で行われてきた先住民族差別について、その歴史認識を深め、新たな関係作りを目指した学習・啓発活動の実施

(2) 台湾の原住民(ユンツァーミン)教会及び原住民族(ユンツァーミンツ)との交流

・玉山神学院学生の実習受入、学習会(7月上旬)

(3) 台湾基督長老教会の原住民(ユンツァーミン)教会が培ってきた信仰や、先住民族宣教のあり方を学ぶ学習会等の開催

提案理由

北海道と呼ばれているアイヌ・モシリ(人間の大地)は、もともとアイヌ民族が自然と共に生きてきた土地です。しかし、日本近代天皇制国家による侵略によって、アイヌ民族は土地も森も川も、自由に狩猟することも、さらに文化や言葉も奪われ、多くのいのちも奪われました。そしてその苦難の歴史は十分に省みられることなく、現在にいたってもアイヌ民族は厳しい差別にさらされています。そのアイヌ・モシリに宣教活動を行なったキリスト教会もまた、アイヌ民族の存在に無関心であるばかりか、アイヌ民族としてのアイデンティティを尊重せず、明治政府の同化政策に協力さえしてしまいました。わたしたち日本基督教団北海教区は、教会が侵略者・抑圧者の側に身をおいて歩んできた歴史を反省し、1985年にアイヌ民族の権利回復の働きを共にする目的でアイヌ民族委員会を、1996年に「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」(センター規約3条)としてアイヌ民族情報センターを開設し、ささやかながら連帯の取り組みを進めてきました。

昨年、浦河在住のアイヌ民族三名が盗掘された先祖の遺骨の返還等を求めて北海道大学を告訴しました。先住権を争う新たな裁判が始まり、この裁判協力を含めて今後も権利回復のための働きの手を休めることなく、アイヌ民族の皆さんに連なっていきたいと願います。

恒例となったアイヌ民族フィールド・ワークは昨年、実施出来なかった道東地区で計画が進められています。各地域に出かけて行って、そこに住むアイヌ民族の皆さんと出会い交流することによって課題を共有して行きたいと願います。

また台湾基督長老教会からお迎えした原住民の教師、ディヴァン・スクルマン宣教師はアイヌ民族委員会の一員として、より積極的な活動を展開され、多くのアイヌ民族の皆さんと関係を深めています。今年は玉山神学院生のアイヌ民族研修と原住民族の学びが予定されています。このような出会いと学びを行うことにより、アイヌ民族だけにとどまらない、世界の先住民族と共に歩む教会として、私たちは成長することができるでしょう。

以上の理由から、今年度もアイヌ民族の権利回復と差別撤廃、先住民族に関わる諸課題を教区・教会の宣教課題として、積極的に取り組むことを提案します。

教区宣教活動方針に基づく2013年度活動計画 「平和を生きる神の民」

(下線部が変更箇所)

1 教会が新しくされるために——革新

- (1) 北海教区の歴史を共有する諸教会が、御言葉（みことば）によって常に新たにされながら、福音宣教の歩みを進めます。
 - ①第三次長期宣教計画の総括作業ならびに新たな長期宣教計画の策定作業を進める。
 - ②宣教の遺産を整理し、共有する（資料収集、整理など）。また、将来の教区史の編集を視野におきながら、教区史年表作成作業を継続する。
 - ③教会教育についての学びを深める。
- (2) すべての人が招かれるいきいきとした豊かな礼拝を共につくります。
 - ①教会音楽についての学びを深める。
 - ②多様な礼拝のあり方や取り組みを分かち合う。
 - ③礼拝交流を進める。
 - ④礼拝における手話の取り組みを進める。
- (3) 宣教の新しい拠点作りを模索します。
 - ①宣教の拠点として家庭集会などの集会形成を推進する。
 - ②教会から遠い地域に住んでいる信徒の宣教的使命を共に担う。そのために研修し活動を行う。
 - ③「札幌木曜礼拝」やインターネットを活用した新しい形の宣教のあり方を作り出す。
- (4) 教会につらなる一人ひとりが、宣教の担い手となることのできる教会形成を進めます。
 - ① 全道教会中・高生、青年の連帯を強め、積極的にネットワーク作りを進める。そのための諸集会を行なう。（全道教会中学高校生春の集い、全道教会青少年夏期キャンプなど）
 - ②障がいをもつ者ももたない者も共に宣教の主体となる教会形成をめざす。
 - ・障がい者と共にある教会形成「教区集会」と各地区への「キャラバン」とを、隔年で交互に実施する。（今年度はキャラバン）
 - ・「教会手話研修会」「朗読講習会」「手話さんびの会」「朗読CD作成奉仕」を実施する。
 - ・教区通信、その他の朗読CD作成を行う。
 - ・諸集会において手話通訳を行う。
 - ③老いを宣教の課題として取り組む。
 - ・高齢者が諸集会に参加しやすいような態勢を整える。
 - ・高齢者と共に歩む方策を模索する。
 - ④性差別・性暴力のない教会と社会の実現をめざし、学び、取り組む。
 - ⑤生と性の多様さと豊かさを学び、セクシュアル・マイノリティーをめぐる差別をなくす取り組みをする。
 - ⑥子どもの権利条約を学び、子どもの人権問題に取り組む。
 - ⑦信徒の活動や働き場について新しい形を探る。
 - ⑧教職と信徒が共に担う教会形成をめざす。
- (5) 多様な課題に対応するため教区機構を見直し、宣教を支える教区財政のあり方を検討します。
 - ①機構改変に伴って、謝儀保障制度を含む教区財政のあり方について改革を進める。

2 み業を共に担うために——連帯

- (1) 北海道の宣教を担う諸教会・団体を互いにおぼえて祈り、課題を共有します。
 - ①世界の教会との宣教協力を進める。
 - ・台湾基督長老教会との宣教協力を進める。
 - ②宣教の総合化をめざし、教区通信の充実と活用をはかる。

- ③教区便覧（祈祷表）を活用する。
 - ④教区ホームページを充実させて運用する。
 - ⑤地区間講壇交換を推進し、互いの理解を深める。
 - ⑥キリスト教主義学校との連携を強める。生徒・学生たちの参加するプログラムと連携するため、関係学校教務教師と連絡・協議する場を設ける。
 - ⑦在日大韓基督教会札幌教会との宣教協力を推進し、内実化をはかる。
 - ・8月を在日大韓基督教会札幌教会との「宣教協力重点月間」とする。
 - ・在日大韓基督教会札幌教会との協議会を開催する。
 - ⑧芦別祈りの家献金に協力し、芦別祈りの家を活用する。
 - ⑨ホレンコ、北海道クリスチャンセンター、道北クリスチャンセンター、三愛畜産センターに協力する。
 - ⑩浦河べてるの家、道北センター福祉会、麦の子会、塩谷福祉会、北海道クリスチャンセンター家庭福祉相談室、神愛園、いのちの電話などを支援する。
 - ⑪幼稚園問題に関する課題を整理する。
- (2) 小規模教会・無牧師教会の宣教を共に担うために、謝儀保障制度をはじめとする宣教協力体制を大切にします。
- ①自立連帯資金に基づく謝儀保障を堅持・充実するため、諸教会において自立連帯献金などの取り組みを進める。
 - ②謝儀保障費の各年度の変動に対応するため、教職謝儀保障費基金の充実と活用をはかる。
 - ③謝儀保障を受けている教会伝道所、兼牧・代務体制の教会伝道所、地区などの宣教協力関係にある教会伝道所の伝道と課題に協力支援する。（稚内教会、名寄教会、土別教会、興部伝道所、和寒伝道所、旭川星光伝道所、美馬牛福音伝道所、留萌宮園伝道所、置戸教会、中標津伝道所、新得教会、滝川二の坂伝道所、岩見沢教会、栗山教会、西札幌伝道所、十二使徒教会、札幌元町教会、札幌富丘伝道所、手稲はこぶね教会、新発寒教会、俱知安伝道所、島松伝道所、浦河伝道所、元浦河教会、洞爺湖教会、七飯教会、江差伝道所）
- (3) 会堂・牧師館建築などの諸教会・団体の事業を支援します。
- ①開拓伝道資金の維持・充実をはかり、会堂・牧師館建築などにおいて資金の活用と運用を積極的に進める。
 - ・初穂献金の充実をはかる。（目標額120万円）
 - ・教会の諸記念日や特別収入の際の献金を呼びかける。
 - ・個人の遺産や特別収入の際の献金を呼びかける。
 - ②会堂建築献金並びに牧師館建築献金に協力する。（俱知安伝道所、十二使徒教会、札幌北部教会、小樽聖十字教会、栗山教会、美馬牛福音伝道所）
- (4) 年頭修養会をはじめとする各種集会・研修会を通して、信仰と交わりと学びを共有します。
- ①年頭修養会を行い、積極的な参加を呼びかける。（1月）
 - ②教職講座を実施する。（10月）
 - ③「教区収穫感謝の集い」を実施する。
 - ④牧会者研修会と小規模教会協議会を隔年で交互に実施する。（牧会者研修会は新着任教師オリエンテーションの性格も持たせて実施。今年度は小規模教会協議会）
- (5) 地域の諸教会が更に交わりを深め、働きを共に担えるよう、地区活動の活性化を支援します。
- ①地区委員長会議を充実させ（11月）、教区と地区間の連携を深める。
 - ②各地区で課題を持ち、地区委員長会議で情報交換を行う。課題として、道北地区（地区長期計画の推進、美馬牛福音伝道所・和寒伝道所の宣教協力）、道東地区（中標津伝道所・置戸教会の支援）、石狩空知地区（滝川二の坂伝道所と栗山教会の支援）、後志地区（地区の伝道協力）、札幌地区（他地区との協力活動の推進、地区内教会・伝道所の支援）、苫小牧地区（共同牧会のとらえなおし。洞爺湖教会・島松伝道所の支援）、道南地区（地区諸教会の宣教における連帯と協力）など。
 - ③地区レベルでの青少年集会を積極的に実施する。
 - ④地区内・地区間の宣教協力体制を強化する。
- (6) 合同教会としての日本キリスト教団の形成を願い、教区を超えた連帯を深めます。
- ①沖縄教区との交流をはかりつつ、「日本基督教団と沖縄キリスト教団との合同のとらえなおしと実質化」の問題

を考え、その課題を担い続ける。また、合同教会としての教団形成のため諸教区と連携しつつ、教区内外で協議を継続する。

- ②東日本大震災で被災した奥羽・東北・関東教区と連携し、被災地支援に取り組む。
 - ・東北の子どもたちの短期保養受け入れプログラムを実施する。
- ③地区および教区間の宣教協力体制を推進し、宣教の課題を共有する。
 - ・阪神淡路大震災の被災地の課題に取り組んでいる兵庫教区の働きに協力し、その課題を共有する。
 - ・西東京教区との宣教協力体制を強化し、第6期宣教協約を推進する。
今年度は交流キャンプを行なう。(興部伝道所宣教協力)
 - ・兵庫教区宣教委員会のもとに設置された「アイヌ民族情報センター兵庫教区協力小委員会」との連携を深める。
 - ・北海、奥羽、東北の3教区による宣教の課題を共有し、北日本宣教会議に出席する。また教師研修会の出席交流を実施する。
 - ・従来の洞爺湖教会宣教協力委員会の働きを引き継ぎ、洞爺湖教会宣教協力協議会を開催する。(宣教協力募金を行なう)
- ④教団全体に教区活動連帯金制度の完全実施をはたらきかけると共に、今後の動向を見極めながら、教区の財政基盤の確立を図り、新たな教区間の財政的協力関係構築のため取り組む。
- ⑤隠退教師を支える運動「百円献金」および「謝恩日献金」に取り組む。
- ⑥北海教区東日本大震災支援活動募金、奥羽教区被災三教会支援募金、教団東日本大震災救援募金に協力する。

3 平和を実現するために——平和

- (1)「教団戦争責任告白」に証しされた見張りの使命を重んじ、平和憲法の本質に立って戦争に向うあらゆる動きに反対します。
 - ①憲法改悪の動きに抗して、平和憲法を護り、発展させる働きを担う。各地区・各教会で学習会などを実施し、各地域の取組みに連帯する。
 - ②米軍再編による日米の軍事一体化に反対し、『日米防衛協力のための指針』の再々定義と海外派兵恒久法制定を許さない取組みを強める。
 - ③7月7日をアジア諸国侵略戦争反対の日として、7.7平和集会の開催に取り組む。
 - ④反核・平和のための行動と学習をする。
 - ⑤8月15日を反戦平和の日とし、その日を中心に各地・各教会で平和集会、平和祈禱会を持つ。
 - ⑥北海道における日米合同軍事演習および米軍演習場等の設置に反対する。
 - ⑦沖縄のキリスト者と連帯し、沖縄への米軍の駐留に反対し、米軍基地撤廃運動を推進する。
 - ⑧北日本「核と基地」ネットワークの取組みを積極的にすすめる。
 - ⑨戦争に協力する有事法制化に反対し、自衛隊のイラク派遣を違憲・違法とした名古屋高裁判決の意義を学び、平和憲法を守る運動にいかす。
- (2)神のみを主とする信仰に堅く立ち、国家主義と天皇制の強化に反対します。
 - ①北海道護国神社例大祭、公有地の神社問題を始めとする各地での政教癒着に反対し、政教分離を守る北海道集会に参加し、積極的に取組みを進める。
 - ②砂川政教分離訴訟が提起した政教分離貫徹の意義を広め、自治体と宗教団体の癒着をただす闘いを支援していく。
 - ③国が靖国神社・伊勢神宮などへ関わることに反対する。とくに首相・閣僚の靖国神社参拝、靖国神社の特殊法人化、侵略戦争への反省がない戦没者追悼施設建設の動きを監視し、その実施を阻む活動を進める。
 - ④信教の自由、政教分離の徹底を目指し、他教派、他宗教などと連帯して、北海道宗教者懇談会、靖国神社問題北海道キリスト教連絡会議などを開催する。
 - ⑤各地域平和遺族会結成への支援を行い、全道平和遺族会連絡会に協力する。
 - ⑥「新しい歴史教科書をつくる会」「教科書改善の会（改正教育基本法に基づく教科書改善を進める有識者の会）」の自由社、育鵬社版教科書に見られる歴史の歪曲と、それを容認する教科書検定の問題に抗議し、アジア諸国

の人々や、差別・抑圧された人々と共有できる歴史認識を伝える。

- ⑦戦争被害者に対する「国家賠償」「戦後補償」の実現をめざして、これに取り組む。
 - ⑧靖国神社問題・天皇制問題について、靖国問題キャラバンを実施するなど、各教会の学習の取り組みを支援する。
 - ⑨皇室と「国体」「植樹祭」「豊かな海づくり大会」等との関わりを問い直す。天皇の支配を示す元号は使わない運動を進める。
 - ⑩「日の丸・君が代」の強制に反対する。学校現場における「日の丸」「君が代」のおしつけをやめさせる運動に取り組む。また、学校現場での動向を把握し現場で苦悩しているこども、保護者、そして教師と連帯する。
 - ⑪信教の自由を守る日・2月11日の諸集会を全道的に盛り上げる。
 - ⑫「教育基本法」改悪にともなう教育への国家支配の強化をゆるさない取り組みをする。
 - ⑬秘密保全法の危険性を学び、住民基本台帳法、マイナンバー制度による国民監視システムに反対し、撤廃に向けて取り組む。
- (3) 「被造物の保全」の視点から、環境破壊等の問題に取り組めます。
- ①北海道の環境保全について認識を深める。
 - ②「原子力」「放射能被爆」の問題性を認識し、原発廃止のための活動に持続的に取り組む。
 - ・泊原発再稼働中止、廃炉を求め、大間原発とプルサーマル計画の撤廃を求める。
 - ・幌延核関連施設（核廃棄物処理）計画の中止を求める。
- (4) 差別・暴力と向き合い、病気・孤独・生活苦などによる痛みを覚え、人間の尊厳を回復し、共に生きる道を模索します。
- ①アイヌ民族など先住民族の課題を共有する。
 - ・アイヌ民族の権利回復と差別撤廃をめざし、先住権の法的保障を求める運動に取り組む。
 - ・アイヌ民族情報センターの活動を推進する（全国募金150万円）。
 - ・台湾の原住民族（ユエンツーミンツ）をはじめとする、世界の先住民族との連帯を進める。
 - ②朝鮮半島植民地化「韓国併合」から100年を経たいま、在日韓国・朝鮮人の人権問題（在留権および生活権）に取り組む。
 - ③改悪された「出入国管理法」に反対すると共に、「外国人住民基本法」制定運動に取り組む。
 - ④被差別部落やその出身者への差別・偏見に基づく狭山差別裁判の再審を求める。
 - ⑤被差別部落への差別問題学習会とキャラバンを通して部落解放運動の意味と意義を訴えていく。教団部落解放センターとの連携を深め、センターへの献金を強化していく。
 - ⑥世界基督教統一神霊協会被害者の救済活動に協力する。
 - ・世界基督教統一神霊協会被害者の救済活動に協力する者の学習会を開催する。
 - ⑦死刑制度の廃止と執行の停止に取り組む。
 - ⑧現行裁判員制度の問題点について、学びを深める。
 - ⑨冤罪事件の救援運動に取り組む。
 - ⑩障がい者に関する差別や人権の課題に取り組む。
 - ⑪農業・農村・農民の問題を宣教課題と受けとめ、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の問題を認識し、農業を守るために農産物輸入自由化に反対する。
 - ⑫ハラスメントの被害防止と問題解決に向けて取り組み、相談窓口を運営する。
- (5) 北海道・日本・アジア・世界に生きる隣人と、いのちとくらしを守る働きを共に担います。
- ①各地域にある市民運動との連携を進める。
 - ②各地の三愛塾運動を支援し協力する。
 - ③災害救援の活動に取り組む。
 - ・東日本大震災被災者及び原発被災者支援に取り組む。
 - ・東日本大震災によって「被災弱者」とされた被災外国人が置かれている状況を理解し支援する。
 - ④ホームレス支援団体と連携し、ホームレス状態に置かれた方々の命と権利が守られるための支援を行なう。

北海教区にある諸教会のみなさまへ

2013年 聖霊降臨日 北海教区総会議長 久世そらち

主の御名を讃美いたします。

聖霊によって主の教会が建てられたペンテコステの日のできごとを思い起こしつつ、北海教区にあって主の福音の宣教のみわざにあずかり共に労してくださる諸教会・伝道所、関係学校、幼児施設、団体に連なるすべての方々に、ごあいさつを申し上げます。

4月29～30日、札幌北光教会礼拝堂において第73回北海教区総会が行われました。教区総会議長・副議長・書記の選挙が行われ、その結果、久世そらち(議長・札幌北部)、笠田弘樹(副議長・琴似中央通)、卜部康之(書記・千歳栄光)の三名が引き続き任を負うこととなりました。

これまで二期四年間、教区総会議長の任にあたってきましたが、この間に教区および諸教会等の状況はいっそう厳しさを増してきています。教区として十分に効果的な方策をもって対処することができたかどうか、省みれば、うなだれるほかありません。それでもなお、これまでの歩みの中に与えられた主の恵みの輝きに励まされて、与えられた更に二年のつとめにあたる所存です。

教区常置委員選挙(半数改選)が行われ、信徒から島田久美子(月寒)、板谷良彦(札幌北部)、教師から小西陽祐(余市)、石川宣道(室蘭知利別)の4名が新たに選出されました。いずれも30～40代の方々です。教区を担う新たな世代への期待が示されました。

教区総会開会礼拝において、木村拓己(美唄に新着任)・松本紳一郎(函館)・佐藤紀子(無任所)の三名が接手を受けて正教師となり、また高濱心

吾・高濱梨紗(いずれも札幌北光に新着任)の二名が准允を受けて補教師に任じられました。

また、そのほか新年度と共に教区内の教会・関係学校には、木村幸(美唄)、久保哲哉(麻生)、小林昭博(酪農学園大)といった方々が着任されています。いっぽう、名寄教会、和寒伝道所、置戸教会、栗山教会、西札幌伝道所、洞爺湖教会、江差伝道所では主任担任教師が不在です。なお札幌伝道所は丸山澄夫教師、洞爺湖教会は宇野政勝教師を新たに代務者として迎えています。

総会の審議の間では、教区・教会の財政がますます厳しい状況になってきていることが示されました。教区の会計は財務担当者の並々ならぬ尽力により様々な工夫を重ねて運用されています。

年々増大する未収金に関し、新年度の予算に「未収分担金管理引当金」の項目が加えられ、財務状況の実態がわかりやすく示されるようになりましたが、これは決して問題の解決ではありません。未収金発生要因として、諸教会の財務状況のいっそうの悪化があります。これに対しては、それぞれの教会の努力だけでなく、いっそう連帯を深めることをもって共に担っていく道を探っていくほかありません。

それだけに、財政的理由によらず多額の負担金を未納としている札幌教会の責任はきわめて大きいものがあります。2007年の教区総会に提出された「訴願」をめぐる問題に端を発して教区との関係が不正常に陥っている札幌教会とは、話し合いを継続中ですが、はかばかしい進展を見てはいません。例年に比べ、総会の議場でのこの問題に関する発言は多くはありませんでしたが、教区の多くの人々の祈りが向けられていることを覚えねばなりません。

総会の場において、東日本大震災支援活動の報告が行われました。東北教区から小西望副議長が来られ、被災地の状況や支援活動について、とくに北日本三教区で協力して実施している「親子短期保養プログラム」について報告されました。また北海教区が酪農学園大学や北星学園大学と協力して行った学生・青年ボランティアの派遣プログラムについても報告がなされました。被災地にかかわる状況の深刻さが胸を衝きましたが、いっぽう、これらの活動に参加した青年たち自身からの報告は、聞く者たちに深い感銘と共に新たな希望をも与えてくれるものでした。苦しみや重荷を共に担う中にこそ教会の希望があることを、改めて示された思いです。

今年度は、北海教区の第三次長期宣教計画の最終年にあたります。これまでの歩みをふりかえり次期の宣教計画を作成する作業が進められていますが、この宣教計画に基づいて、2013年度の教区活動計画も決定されました。また特別決議とし

て、「憲法改悪阻止の取り組み推進決議に関する件」「靖国神社問題に対する取り組み推進決議に関する件」「オスプレイ配備撤回を求めることを通して、沖縄差別のない社会を目指す運動を推進する決議に関する件」「アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件」が、いずれも真摯な意見交換を踏まえ、賛成多数で可決されています。

教会の置かれているこの社会は、これらの決議に反映されているように、めまぐるしく変転しつつ、平和の主の御心とはかけ離れた方向へと向かっていっているように見えます。北海道の地域社会も、ますます重い課題を負って悩みを深くし、うめいています。教会もまた、このうめきを共にしつつ、なお主にある希望を指し示すことができるかどうか、真剣に問われる時を迎えています。

このときにあたり、聖霊が新たに教会に命の息吹を与え、私たちをひとつに結び、終りの時にむかう希望を新たにしてくださるよう、祈りをあわせましょう。

